



学校法人南山学園

2024年度

事業計画書

NANZAN
SCHOOL CORPORATION

目 次

理事長メッセージ（2023年4月1日付）	1
----------------------	---

学園全体事業計画	5
----------	---

設置校別事業計画

1. 南山大学	8
---------	---

2. 南山高等学校・中学校	
(1) 男子部	12
(2) 女子部	18

3. 聖霊高等学校・中学校	26
---------------	----

4. 聖園女学院高等学校・中学校	32
------------------	----

5. 南山大学附属小学校	36
--------------	----

6. 聖園女学院附属聖園幼稚園	40
-----------------	----

7. 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園	42
--------------------	----

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、各単位校の事業計画書に記載している内容から変更となる可能性がありますことを予めご承知おきください。

※ 各単位の項目に記載の★印は、別途作成している「南山学園中期計画（2020年度～2024年度）」において、5年間の間に取り組むこととしている計画として記載されている事項のうち、2024年度において取り組むものであることを示します。

2023年4月1日

教職員のみなさん

理事長メッセージ

学校法人 南山学園
理事長 市瀬 英昭

「カトリック学園としての教育モットー『人間の尊厳のために』のもと行われる教育・研究の場で学ぶ学生、生徒、児童、園児がそれぞれの場で『ともに学ぶ喜び』を感じ、全教職員が本学園の教育理念を理解して、ここで『ともに働く喜び』を感じて、学園としてその教育事業の実りを日本社会と世界へ向けて発信する」

教育モットーの由来

1907年9月8日、3名の神言修道会（以下、「神言会」）会員が日本での宣教活動のために神言会総本部より派遣され横浜に上陸しました。1909年8月には、将来、南山学園を創設することになる同会会員のヨゼフ・ライネルス神父（1874年～1945年）が来日しています。日本におけるカトリック教育の重要性を痛感していたライネルス神父は「高潔、誠実、善良であれ」「一人ひとり、必ずひとつの尊い使命を与えられた、かけがえのない存在である」との確信のもと、名古屋の地に、1932年に南山中学校を1936年には南山小学校を設立し、今日の南山学園の礎を築きました。

その後、多くの先達の努力と善意の方々の献身的な働きによって引き継がれてきた南山学園は、名古屋聖霊学園および聖園学院との二度の法人合併（1995年および2016年）、名古屋聖霊短期大学、南山大学短期大学部、南山国際高等学校・中学校の閉校（2004年度末、2019年度末、2022年度末）を経て、2023年4月1日現在、愛知県と神奈川県において、幼稚園から大学まで8つの単位校よりなるカトリック総合学園となりました。本学園はキリスト教世界観に基づく学校教育を目指しており、学園内の各単位校はそれぞれの歴史と校風を持ちながら学園全体の方向性について教育モットー「人間の尊厳のために」(Hominis Dignitati)を共有しています。この教育モットーは、南山学園創立者ライネルス神父の信念を引き継ぐ形で、第7代南山学園理事長アルベルト・ボルト神父（1908年～1990年）が発案したものです。しかし、それは個人的な理想ではなく、キリスト教世界観に深く根ざしたものとなっています。それはまた、一人ひとりが、例外なく、「神の似姿」に創造された侵すことのできない存在であるという聖書的人間観です。

新型コロナウイルス感染症拡大を経験している現在、また、世界に起きている様々な紛争や災害を目の当たりにする中で、「人間の尊厳のために」は本学園のみならず、広く社会と世界へ向けて発信されるべきメッセージになったと言っても過言ではありません。今後、様々な困難を経て、世界は積極的に「共に生きていく」ことについて考え、実践する方向へ

舵を切るのではないかと思われます。確かに、自然を含む「他者との共生」への道は険しいものですが、人類が生き延びるために、それも単に生き延びるだけでなく、幸せに生きていくためにそのような方向性が必要であると思われます。政治も経済も法律も医学も科学もそして「教育」もすべて「人間のため」にあるのであって、決して逆ではないということは言うまでもありませんが、問題はそれらが『『すべて』の人間』の『『本当』の幸せ』に向けられているかどうかということです。南山学園の教育活動、研究活動が目指す目標はそこにあります。各単位校には、この共通の教育モットーを堅持し、それぞれの具体的な場で実践していただくようお願いいたします。

教育理念の実践のために

2017年4月1日に理事長に就任した際には、本学園の基本方針と目指すべき方向性を再確認することを旨とし、ハンス ユーゲン・マルクス前理事長が2016年4月1日に掲げられた理事長基本方針を継承する形で理事長方針をお示ししました。理事長の再任に際し、また、2032年の学園創立100周年まで10年という節目にあたり、理事長メッセージとして、南山学園が掲げる教育理念（「宗教性の涵養」、「知的理解と厳しい知的訓練」、「地域社会への貢献」、「国際性の涵養」）について、私なりの理解をお示しし、教職員のみなさんと共有したいと思います。そのうえで、本学園の教育理念の具体的な実現に向けて、みなさんが考え、行動するうえでの道しるべとなるキーワードをお示ししたいと考えます。

「宗教性の涵養」

これは、カトリック学園としての教育・研究活動の基礎をなす部分です。宗教という場合、二つ次元を区別しそれを関連付けることが肝要となります。一つは、すべての人間に共通の普遍的な宗教性ともいうべき次元の宗教です。他は、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、仏教といった個別の具体的な宗教です。この意味における宗教は、具体的な「窓」と言えるでしょう。キリスト教という「一つの窓」から見ると世界は「どう見える」のか、そしてどう「ともに生きていける」のか、それらを学ぶ機会が本学園では提供されます。諸宗教は、それぞれの独自性と個性を生かしながら協力し、世界の平和のために貢献することが求められており、キリスト教もその貢献に参加しています。各単位校におけるアプローチは当然のことながら異なります。幼年期には、実際の体験が重要視されますが、世代が上がっていくにつれて知的、理論的な表現が必要となります。とりわけ大学においては高度で客観的な理解がなされることにより、異なる立場の他者とも知的なレベルの対話を可能とすることが求められています。これは、教育理念の次の側面へと進みます。

「知的理解と厳しい知的訓練」

この点についても各単位校での取り組みはそれぞれ異なっていますが、すべての知識

や学びは独善的な方法ではなく、他者との対話の内に獲得されるものであるとの理解が共有されています。自分と他者との事柄に誠実に関わっていく中で真理へと近づく姿勢が大切となります。学びにおいては「知的」な側面だけでなく、総合的なアプローチが必要となります。その意味で、従来の「主要科目」（主に5教科）とそれ以外の「周辺科目」といった区別は再考を迫られることとなります。すべての科目が大切であり、すべては繋がっています。重要ではない科目はありません。「認知能力」だけでなくコミュニケーション力、共感力、忍耐力などを指す「非認知能力」の大切さを想起したいと思います

「地域社会への貢献」

すべての知識と学びの実りを自分のためだけにとどめておくことはできず、周囲へ広がっていく、ということに関連しています。南山学園は地域社会に支えられ、地域社会とともに成長してきました。これまでにのべ22万人を超える卒業生を輩出し「人間の尊厳のために」を实践する社会作りに貢献してきました。地域社会とのつながりも各単位校においてそれぞれ異なりますが、各単位校で独自の実践を継続してくださるようお願いいたします。この貢献は地域社会への恩返しという意味も含んでいます。

「国際性の涵養」

南山学園の最初からの関心事でもあります。世界に存在する様々な国と文化に尊敬の念をもって接し、その出会いと対話による学びを大切にします。その際、自国の文化についての学びの重要性も再認識することになります。自らの文化と言語に関する理解なくしては、他文化・他言語との実りある対話は期待できないからです。人間だけでなく他の動植物が「ともに暮らす家」（教皇フランシスコ『ラウダート・シ』）である地球の上でさまざまなつながりの中で生かされているという事実に目覚め、すべて人が「他者」について責任を持っているとの自覚の上に行動を起こすとき、わたしたちは、真の意味の国際人となるのではないのでしょうか。

教育理念の实践には、学園に属する全構成員のみなさんとともに、直面する様々な課題に向き合い、行動しなければ実現はできません。健全な財政的基盤を確保するための「基準財務シミュレーションに示される目標額の達成」や、各単位校における目的および事業計画を具現化した基本的方策となる「中期計画」（2020年度～2024年度）の実現、自律的な学校運営のための「ガバナンス・コード」の遵守は、その大前提となります。それぞれ立場は異なりますが、みなさまそれぞれの立場から、どのような取り組みができるのか考え、行動していただくようお願いします。さらに、教育理念の实践を考えるうえでの道しるべとして、以下のキーワードをお示しします。新たな取り組みに着手する際、既存の取り組みの見直しをする際、何か困難に直面した際、このキーワードに焦点を当ててくださるようお願いいたします。

いたします。

- ① 各単位校が自校の歴史と校風を大切にしながら、一つの学園としてのアイデンティティを保つこと
- ② 各単位校間の連携、情報交換を促進すること
- ③ ミッションスクールの良さをアピールすること
- ④ 学園外の社会とりわけ同窓生との繋がりを大切にすること
- ⑤ 学園内の全教職員が本学園の歴史や理念を深く知る機会を持つこと
- ⑥ 学園の全構成員が誇りと喜びを共有できる学園を具体化すること

将来へ向かって

変化の激しい現代社会にあって世界と日本における「教育」が今後どのような展開を遂げていくのかについて正確に予測することはできません。しかし、どのような変化の中にあっても本学園の教育モットーは変わることがありません。この教育モットーの大きな方向性を共有しながら、教育理念の実践のために、各単位校は、それぞれの方法で具体的な課題に丁寧、誠実に取り組んでいただきたいと思います。人間の尊厳には、自然を含む「他者への責任」ということが含まれます。「人間は責任的存在である」と言われますが、この「責任を持つ」という在り方、あるいは、見返りを求めない「無償の愛」という行為は、時代がいかに変化しようとも、AIやロボットが取って代わることのできない、人間の尊厳に固有な長長であり続けるであろうと思われまゝ。人間の尊厳に生きることは抽象的な概念の中ではなく実際の生き方によって具体化されるはずのものです。人間の尊厳に生きる、それは、例えば、他者の中に、「宝」を見いだしそれを輝かせる、というような在り方である、とも言えます。教育の現場で必要とされているのは、向き合う相手に自身の尊厳を自覚させるような対話的な関わりではないでしょうか。これは教職員のみなさんの中にあっても同様です。教職員のみなさんには、本学園に属する学生、生徒、児童、園児が、自分たちの中にある宝、素晴らしさに気づきそれを伸ばしていく、誰かの、何かの役に立つことが喜びとなるような指導と関わりをお願いいたします。今後も、南山学園が、単なる現状肯定ではなく、あるべき社会の形成へ向けて貢献する人材を送り出していくことができるよう、学園に属する全ての構成員のみなさんのご協力を今一度、お願いする次第です。

以上

2024年度事業計画（学園全体）

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2024年度事業計画の概要

2025年4月1日付で「私立学校法の一部を改正する法律」が施行されることに伴い、学校法人は、社会の要請に応え得る実効性のあるガバナンス改革を推進することが求められています。南山学園も、学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」に基づき、カトリックミッションスクールとしての特徴や役割を再認識したうえで、実効性のあるガバナンス改革を行うことができるよう管理運営制度の見直しを図ります。また、昨今の社会の変化や要請に応えながら、着実に事業を推進してまいります。

2024年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・私立学校法改正の趣旨に則ったガバナンス改革を推進し、寄附行為変更等の必要な手続きを進めます。
- ・第2期中期計画（2025年度～2029年度）について、進捗確認方法を予め定めたいうで策定します。
- ・学園創立100周年事業を検討するにあたり、全構成員が南山学園の存在意義や未来の姿を共有することができる機会となるよう、理事長と教職員との懇談会（タウンホールミーティング）を開催します。
- ・学園のスケールメリットを生かした産学官連携の可能性について、企業等と具体的な協議を行います。

2024年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・南山学園財政にかかる中長期目標の達成に向け、各経理単位に目標達成に向けた提言を行います。
- ・補助金獲得額増加を目指し、補助金分析ならびに獲得に向けた提案を行います。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 私立学校法改正にかかる対応 ★

2025年4月1日付で「私立学校法の一部を改正する法律」が施行されることに伴い、理事会ならびに関連委員会等を中心に、理事・理事会、評議員・評議員会の資格・解選任手続き等について議論を行い、寄附行為変更等の必要となる手続きを進めます。また併せて、実効性のあるガバナンス改革となるよう管理運営制度ならびに意思決定の在り方についても見直しを行います。

(2) 次期中期計画の策定 ★

第1期中期計画（2020年度～2024年度）が2024年度をもって終了することから、南山学園総合企画委員会が中心となり、第2期中期計画（2025年度～2029年度）を策定します。策定にあたっては、課題として認識している進捗確認方法（評価の基準およびエビデンスのあり方）を予め定めたいうで策定を行います。

(3) 学園創立100周年記念事業の検討

南山学園は、2032年に学園創立100周年を迎えます。改めて南山学園の歴史や教育事業の歩みを振り返り、多様なステークホルダーに南山学園が行う教育事業の理解を深めていただくとともに、南山学園の全構成員が、南山学園の存在意義や未来の姿を共有することができる機会となるよう記念事業等について検討を始めます。

2. 教育・研究

(1) 学園のスケールメリットを生かした産学官連携の模索 ★

学園のスケールメリットを生かした産学官連携の可能性について、2023年度に情報収集を行い、連携の可能性のある企業等と打ち合わせを行いました。2024年度は、その実現可能性について、具体的

な協議を行い、試行に向けた準備を行います。

(2) 学園内連携のさらなる充実 ★

学園創立 100 周年記念事業を検討するにあたり、全構成員で学園の存在意義や未来の姿を共有し、そのうえで学園の目的達成に向かう組織作りのために、構成員が一体となる機会とすることが重要であるとの共通認識のもと、理事長と教職員との懇談会（タウンホールミーティング）を開催します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 「私立大学ガバナンス・コード」改訂への対応

一般社団法人日本私立大学連盟「私立大学ガバナンス・コード」は、2025 年 4 月に、私立学校法改正に対応した版への移行が予定されています。学園運営の指針を明示した「南山学園ガバナンス・コード」は、「私立大学ガバナンス・コード」に準拠して策定していることから、南山学園ガバナンス・コードも遅滞なく改訂することができるよう情報収集ならびに改訂準備を行います。

(2) 学園広報活動 ★

2022 年度から行っている、「カトリックのミッションスクール」と「国際性」を軸とした鉄道・空港・集客施設等の各種媒体を活用した広報活動を継続します。併せて、2025 年度以降の広報活動のあり方について検討を行います。また、2019 年度から実施している各単位校合同での進学相談会「トワイライト合同相談会」を継続し、カトリック総合学園としての南山学園の PR とともに、各単位校入試広報活動の支援を行います。

2. 施設・設備

(1) BCP（事業継続計画）の策定に向けた具体的な作業開始 ★

2020 年度に学園としての BCP（事業継続計画）の策定の必要性が課題として提示されて以降、外部コンサルティングを導入しての策定準備等も含め検討してまいりました。今般、私立学校法の改正に課された内部統制システムの整備義務との整合性を確保した形で学園全体の BCP の策定を進めます。

(2) PCB 廃棄物の処分 ★

高濃度 PCB 廃棄物である蛍光灯安定器の処分を完了しました。低濃度 PCB 含有の可能性のある機器については順次 PCB 含有濃度検査を実施しており、処分期限の 2027 年 3 月末までに適切に処分を行います。

(3) 省エネルギーならびにカーボンニュートラル対策 ★

昨年度に引き続き、CO2 排出量の削減を目指し、省エネルギー対策として空調設備更新や省エネ運用を実施します。2050 年のカーボンニュートラルに向けて、太陽光発電等再生エネルギー設備の導入計画を検討します。

(4) 遊休資産等の活用と処分 ★

南山学園が所有する遊休資産等については、多角的に活用方法を検討するとともに、将来的に活用の見込みのない土地については処分を含めた提案をします。

(5) 聖園女学院高等学校・中学校正門前土地問題

国道 467 号線との境界が明確ではなかった聖園女学院高等学校・中学校正門前の土地については神奈川県と確認を進めています。2024 年度は引き続き神奈川県に働きかけ、測量に基づいた土地の確定作業を進めます。

3. 社会貢献

(1) 中部経済連合会・中部経済同友会への加盟等による経済界とのつながり ★

学校法人は教育活動および大学での研究活動を通じて、次世代の育成や新しい知見・技術等の学術

を通じて、経済発展の一翼を担っています。南山学園では、中部経済連合会・中部経済同友会等の中部地域の経済団体に継続して加盟し、経済界とのかかわりを持つとともに、双方向の情報交換により、社会のニーズや変化を把握し、中部地域の経済発展への寄与と本学園の教育・研究活動の向上に努めます。

4. 財務

(1) 財政改善に向けた取り組み

2022年度に設定した「南山学園財政にかかる中長期目標(2023年度から2027年度までの5年間)」に基づき、収入の安定化・多様化と支出の最適化を図りつつ、中長期目標の実現を目指します。そのためにまずは、2023年度の実績を踏まえ、各経理単位における中長期目標の進捗状況を把握し、目標達成に向けた提言を適宜行います。また、南山学園における教育・研究の維持・発展を目的とした中長期目標の在り方を継続的に検討することで、目標値の形骸化を防ぎます。

加えて、南山学園の財政状況について、財務比率等の経営判断指標を用いて多角的に分析・評価を行い、財政改善に必要な施策を随時検討していきます。

(2) 収入増加への取り組み

財政基盤を強化するために安定的な収入を確保すべきということは言うまでもありません。少子化の進展など学校法人を取り巻く環境は厳しくなる中で、学生生徒等納付金以外の収入源(手数料収入、施設設備利用料収入、受取利息・配当金収入等)の獲得に向けて種々の方策を推進するとともに、補助金や寄付金獲得のための能動的なアプローチに取り組みます。

また有価証券運用の取り組みについては、これまで南山学園が定める資産運用方針に基づき、安定性の高い銘柄を定期的に購入してきた結果、近年は当該方針に定める有価証券の保有上限に近づきつつあり、新たな取り組みを検討すべき時期にきています。リスクを最小限に抑えながら、運用益獲得を目指す従来の方針は遵守しつつ、安定的な運用益獲得を目指します。

5. その他

(1) 文書業務の電子化の促進 ★

ペーパーレス化を推進し、さらなる業務の効率化を高めることを目標として、電子決裁システムの拡充、電子印や電子署名を利用した契約書や証明書の取扱を検討します。

(2) 各単位補助金に係る交付状況の分析

2023年度各単位に交付された補助金について、前年度と比較して2024年度以降の申請でより多くの補助金が獲得できるよう分析し、獲得できる案件はその方法を提案していきます。

以 上

2024年度南山大学事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2024年度事業計画の概要

ポストコロナの時代では「以前の現状」に戻すのではなく、「新しい現状」を作り出す努力が要求されています。「新しい現状」に向かう本学の使命は、“3Ds”（Dignity：人間の尊厳の推進、Diversity：多様性の重視、Dialogue：対話の場づくりとその実践）です。2024年度は、3Dsを通して学内改革に励み、創立100周年に向けて教育モットー「人間の尊厳のために」を守りながら、「新しい現状」を作り出していきます。

2024年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・3Dsの実践を通じた重点的取組み
- ・時代に適合した教育手法の推進と内容の充実化
- ・教学マネジメント体制の整備
- ・高大連携教育の推進
- ・他校との交流の推進

2024年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・3Dsの実践を通じた継続事業の発展
- ・グローバル化の推進
- ・教育手法と内容のさらなる展開
- ・知的交流の場の創出
- ・環境問題への取組み
- ・地域社会・産業界との知的交流・連携の促進のための体制の整備
- ・学生支援の継続と強化
- ・入試制度の継続的検討
- ・中高大連携の拡充
- ・戦略的な広報展開

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 3Dsの実践を通じた重点的取組み ★

「Dignity：人間の尊厳の推進」の実践として、「南山アイデンティティのさらなる浸透」に取り組めます。移転後60年を迎える「山里キャンパス」の歴史と美しさを国内外の人々に伝える催しを企画・実施します。

「Diversity：多様性の重視」の実践として、「環境・多様性に配慮したキャンパスの整備」に取り組めます。募集・採用、会議体の編成・意思決定過程の場面等においてジェンダーバランスに配慮します。DXを推進し、AI活用を含めた業務環境の改善を検討します。

「Dialogue：対話の場づくりとその実践」として、「対話を通じた大学運営」に取り組めます。データ等を活用し、対話を通じた教学実践の点検・評価・改善の継続的実施が可能な組織風土を作ります。学内に卒業生が立ち寄り対話・交流が可能なアルムナイ・ラウンジ開設構想を推進します。現役学生と卒業生が出会い、研究・教育の両面で協働する場を、同窓会との連携等を通じて企画・実施します。

3Dsを実践し、持続可能な大学運営を行うことができるように、南山学園中期計画（第2期：2025

年度～2029年度)を策定します。また、2032年の学園創立100周年事業に取り組むとともに、2046年の大学創立100周年に向けて新たなビジョン策定の準備、年史編纂体制の整備を進めます。

2. 教育・研究

(1) 時代に適合した教育手法の推進と内容の充実化

学修者本位の教育を実現するための多様な教育手法を各授業科目において推進します。学修者が自らの学修状況と学修成果を振り返るための学修成果可視化システムの導入を進め、LMS(Learning Management System)等各種オンラインツールの有効活用について継続的に検討します。大学での学びを地域に還元するサービスラーニングや、数理・データサイエンス・AI教育プログラム等、新しい授業科目の導入を検討します。大学院においては、就業者がキャリアアップのために新しい知識やスキルを修得するためのリカレント教育の実現可能性について検討します。

(2) 教学マネジメント体制の整備 ★

入学前から卒業後までを視野に入れた教育の質保証を行うために、3つのポリシーを踏まえた教学活動の点検・評価・改善を継続的に実施する体制を整備します。大学、各学部・研究科において、教育の質保証を担保するための具体的な取組みを推進します。

(3) 高大連携教育の推進

高校生が本学の教育活動に参加することができる施策を推進するとともに、入学予定者に対する教育の充実化を検討します。

3. その他

(1) 他校との交流の推進 ★

他大学や中学・高等学校との課外活動における交流を促進します。特に、カトリック系高等学校との高大連携を充実させるために、カトリック系高等学校向けのスポーツ大会の実施を検討します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 3Dsの実践を通じた継続事業の発展 ★

継続事業についても、3Dsの実践を通じて、さらなる発展を目指します。

「Dignity:人間の尊厳の推進」の実践である「南山アイデンティティのさらなる浸透」の取組みとして、3Dsの具現化とも言える「人間の尊厳賞」に関連する取組みをより充実させ、本学の教育モットー「人間の尊厳のために」の内実を学内外に浸透させます。

「Diversity:多様性の重視」の実践である「環境・多様性に配慮したキャンパスの整備」の取組みとして、改正障害者差別解消法施行により義務となった合理的配慮をさらに充実させ、多様な背景をもつ人たちが対話を通じて相互理解を深めつつ共生できる環境の実現を目指します。省エネ・節電に努める等、環境に配慮した行動をするとともに、建物・施設のさらなるバリアフリー化を図るような改修の可能性について検討します。

「Dialogue:対話の場づくりとその実践」である「対話を通じた大学運営」の取組みとして、令和4年度大学設置基準等の改正に係る基幹教員制度導入への準備を始め、基幹教員の割り当て、主要授業科目の位置づけ等について、対話を通じて具体的に策定します。本学アイデンティティの中核を成す「国際性」を体現する外国語学部のあり方、2025年4月開設の理工学研究科博士前期課程・後期課程について、全学的な対話を通じて引き続き検討します。寄付金、補助金の獲得等、財政的な観点をもって、教育・研究および課外活動の充実化の議論を始めます。

2. 教育・研究

(1) グローバル化の推進 ★

グローバル化戦略に関する全学的な対話促進のための会議体の設立、戦略を具体化し実施するために必要な組織的環境の整備について検討します。協定校が少ない国・地域の開拓、留学目的の多様化への対応、長期・短期留学への参加を促す教育的施策、学内の国際交流施設の有効活用、短期留学プログラムに対する経済的支援等を引き続き検討し、留学制度の充実化を図ります。外国人留学生別科開設 50 周年を契機とする別科同窓生の組織化、別科留学生と本学の学生との共修、アニメスタディツアー等のプログラムを引き続き検討し、留学生受入れ制度の充実化を図ります。

(2) 教育手法と内容のさらなる展開

2023 年度に策定した遠隔授業の方針を踏まえ、その課題を整理し、より明瞭な方針を策定するとともに、より質の高い遠隔授業の実現を推進します。2018 年度に採択された世界展開力強化事業において事後評価で最高評価 S を獲得した NU-COIL プログラム、外国人留学生別科生との対面式の国際共修科目である「オープン科目」の充実化を図ります。Nanzan International Certificate に代わる新たなプログラムの具体的な計画を開始します。

(3) 知的交流の場の創出 ★

セミナー室やラーニングコモンズの利用状況を把握し、知的交流の場の創出に向けた大学内空間資源の有効活用について検討します。ライネルス中央図書館でのイベント企画を通年で計画的に進める体制や、人類学博物館、ライネルス中央図書館、研究所、研究センターの連携体制等を整備し、学部生、大学院生、教職員間の対話を進め、知的交流の活性化を図ります。

3. 社会貢献

(1) 環境問題への取り組み

環境理念を共有するジブリパーク・オフィシャルパートナーとの連携を進めます。環境問題に関して、学生によるプロジェクト、本学研究者による社会実装につながる教育・研究、その成果の多様な発信を推進すべく、全学的な支援を行います。

(2) 地域社会・産業界との知的交流・連携の促進のための体制の整備 ★

人類学博物館、ライネルス中央図書館、研究所、研究センターの連携による知的交流の成果を社会に対して多様な方法で発信することができるように、連携体制を整備します。また、本学と多様な主体による共創を視野に入れた全学的な社会連携推進体制のあり方について検討します。そのために、企業等との関係構築を進めるために、人文・社会科学、自然科学の各領域での学内研究シーズの全学的把握体制を検討します。

4. その他

(1) 学生支援の継続と強化

学生による取り組みの支援、課外活動の活性化、キャリア支援・教育等、引き続き学生支援の充実化に取り組みます。特に、学生の起業支援について、アントレプレナーシップ教育を拡充させ、地域のスタートアップ施設等と連携し、施策を検討します。

(2) 入試制度の継続的検討

総合型入試の全学的導入と内容の充実化、「学校推薦型選抜（長期留学経験者対象）」、「推薦入学審査（特別協定校）」の拡充を図り、年内入試制度の充実化を図ります。年内入試のあり方と同様に、学部での学修との関連性を意識した一般選抜のあり方を継続的に検討します。

(3) 中高大連携の拡充

学園内の中高大連携を充実させ、高校生が大学教育を体験する機会を創出し、学生との交流を促進します。また、本学との連携に意欲のあるカトリック系高等学校との協定締結を積極的に進め、生徒・学生・教職員との交流を促進します。

(4) 戦略的な広報展開

全学的な観点から広報戦略を立て実効性ある広報を展開できる体制を整え、学内外への南山アイデ

ンティティの浸透を推進します。学内のリソースを有機的に活用できるよう、部署間の連携を強化します。

以 上

2024年度南山高等・中学校（男子部）事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2024年度事業計画の概要

1932年の旧制南山中学校設置から今年で92年目を迎えます。これまでに積み重ねてきた「南山教育」の大切な部分である、キリスト教的愛に基づいた家庭的な雰囲気と相互の信頼と協力に基づく教育を堅持しつつ、知識の教授だけでなく、現代社会で生きるために必要な力を生徒たちが自ら考え、学ぶことができるよう、ICT環境のさらなる充実や行事およびカリキュラムの改善、教員の教育力の向上を図っていきます。思春期という多感な時期を迎える子どもたちに正しい価値観を与え、「地の塩、世の光たれ」という聖書のみ言葉を深く理解し、国際的視野を持ち、人類愛を実践できる人間の育成にむけて、教育活動を深化させます。

2024年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・高等学校生徒へのPC1人1台体制の開始および特別教室プロジェクターの入替を実施し、ICT環境の充実を図ります。
- ・高等学校1年生で新しい宿泊行事「東京研修」を開始します。
- ・体育館への空調設置に向けて検討を行います。

2024年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・カトリック学校の使命、他単位との連携や南山大学附属小学校との接続、財政状況等を踏まえ、中長期を見通した将来構想の計画と実現に取り組みます。
- ・新教育課程の完成年度を迎え、新課程での大学入試を見据えた対応を進めます。
- ・生徒自治会活動、部活動や生徒指導、生徒による社会貢献活動を通じて、生徒の自主性を尊重しながら、生徒一人ひとりの心身の成長に貢献します。
- ・段階的かつ系統的に位置づけられた校外研修の継続的实施および海外研修の充実を図ります。
- ・学園内単位校との人事交流を含め、教員の研修・研鑽に取り組み、教育力の向上を図ります。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 高等学校生徒PC1人1台体制の開始 ★

本校における教育のICT化に向けた環境整備は、2021年度までに全教室に電子黒板を配置し、校内のWi-Fi環境を完備し、2023年度より中学校において生徒用PC1人1台体制を開始しました。2024年度からは高等学校でもPC1人1台体制を開始します。本校では、将来の大学等でのレポート作成や研究、その先にある就職時にも役立つPC活用技能の定着を見据えて、キーボードを使ってしっかりと文章が書くことができ、様々な情報処理や活用ができる能力を身につけることができるよう、学校が指定するWindowsPCを複数機種用意し、生徒や家庭のニーズに合わせて選択したものを教育に活用します。また高等学校では家庭の負担でPCを準備していただくため、そのまま大学に進学しても慣れたPCを引き続き使用できることを想定した機種選定をしています。

2. 教育・研究

(1) 高等学校1年生「東京研修」の実施

2023年度に提携した上智大学とのカトリック高大連携協定を活用し、上智大学でのキャンパス見学や模擬講義などのプログラムを含めた宿泊行事「東京研修」を高等学校1年生において開始します。

2020年度以降高等学校1年生のみ宿泊を伴う行事がない状況が続いていましたが、上智大学を含めた関東のさまざまな大学や、美術館・博物館等を見学したりすることを通じて、卒業後の進路をイメージしながら高校生活をどう過ごすかを意識させるとともに、「小さな紳士」としての教養を深めることを目的としています。

3. 施設・設備

(1) 図書館前ステンドグラスの修繕

図書館前廊下のステンドグラスは旧校舎から移設したもので、3点、6枚のステンドグラスがあり、生徒玄関を入ったところにあることから、生徒たちが毎日の登下校時に必ず目にしており、宗教性の涵養に大きな役割を果たしています。広報的にもカトリック校であるということを視覚で意識させることができ、ステンドグラスの美しさも相まって学校の良い雰囲気を伝える1つとなっています。しかしながら6枚のうち4枚に割れやヒビが入っている部分があり、今年度、神言会人件費節約分（キリスト教活動関連事業）予算の採択を受け、まとめて修繕を行い、美しい状態に戻してステンドグラスの効果を最大限に高め、維持します。

(2) 特別教室設置プロジェクターの入替

特別教室に設置しているプロジェクターについては、合同教室設置のものが2016年度以前の旧校舎から移設したものの、それ以外のプロジェクターも2016年度の現校舎建築の際に導入したものであり、設置から7年が経過し、ランプ寿命に近づきつつあります。2024年度から2026年度までの3年間で全18台を順次入れ替える計画とし、その1年目として7か所の入れ替えを予定しています。

(3) 体育館への空調設置に向けた検討

近年、夏の猛暑が問題となっており、本校においても熱中症警戒アラートが発出されると屋外で行っている体育の授業や部活動等は屋内での活動に変更して対応しています。しかしながら空調機器を備えていない体育館は夏場かなりの高温になり、代替場所として活用が難しい状況です。名古屋市立中学校は2023年度までに、愛知県立高校では2024年度から4年間の計画で体育館等への空調設置が進められている中、本校においても設置は喫緊の課題であると認識しています。費用も高額となるため、資金状況とのバランスや国や県の補助金の活用も視野に入れ、設置検討を進めます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 中長期を見通した将来構想の計画と実現

「将来構想委員会」を中心として、生徒の優れた才能を発見してその個性を伸ばできるように、「生徒に求めるべき学力」と「教科教育力の向上」について議論しています。その議論からの合意を基準として各教員が自覚と責任を持って自らの教育実践を見直します。中学校の卒業生200名がそのまま高等学校に進学することで、6年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、ゆとりを持った効果的な一貫教育が可能です。また、カトリック学校としての男子部の使命、学園内他単位との連携、南山大学附属小学校との教育の接続、財政見通し等、内的刷新が図れるよう将来計画を策定し、その実現に取り組みます。

(2) 聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養

宗教の授業は、人間にとって大切な事は何か、何を目指して生きていけばいいのかを考え、心を豊かにするための時間であり、カトリック学校として何より大切にしています。中学校では最初に男子部の歴史を学び、南山をよく知ると同時に、母校を愛する人物の育成を目指します。また高等学校では古今東西の世界の思想を学び、より広い視野の育成に資するよう、聖書に基づく価値観と宗教心を涵養します。

(3) 教職員の研修・研鑽・自己点検 ★

カトリック学校の教員に相応しい研修・研鑽・自己点検の機会を設けているほか、教科教育の指導法、生徒指導、ICT活用、危機管理対応等、様々な教員対象の外部研修・セミナーへの参加について情報を教員間で共有し、参加を推奨します。一人ひとりの教員の指導力の向上が、男子部の教育力の向上と生徒の成長につながるため、積極的に取り組みます。特に、いじめや生徒指導に関わる問題については、常駐のスクールカウンセラーを講師に研修を継続的に行い、2024年度も実施します。

(4) 広報活動の充実 ★

日常的な教育活動を広く理解してもらい、多くの児童およびその保護者に本校への入学を希望していただくために、春・秋・冬に開催される本校主催の説明会や体験授業を中心とした広報イベントをより充実させていきます。また、リニューアルしたWebページ、FacebookおよびInstagramを最大限に活用し、受験生および保護者への情報伝達の満足度を高めることで、本校の教育に関する理解を広めます。さらに、中学校受験志望者の裾野を広げることで本校の志願者を増やすため、私学協会や学園広報委員会を核にしたPR活動やイベント、学習塾などが実施する説明会などにも参加し、内容を充実させます。

(5) 南山大学、学園内高等学校・中学校、南山大学附属小学校との連携推進

学園内高等学校・中学校とは生徒会活動・部活動において活発な交流を展開しています。また南山大学とは、大学説明会・オープンキャンパス等への参加に加え、部活動での大学の施設借用、社会科学での博物館資料展示、南山大学外国人留学生別科所属の日本で教員を志望する留学生による高校訪問など、高大連携を積極的に進めています。さらに、南山大学附属小学校とは、児童・生徒間でプラスバンド部の演奏会を開催し、交流を継続しています。今後も幼稚園から大学までを有する総合学園の良さを活かし、より充実した教育環境を提供します。

(6) 植栽の検討 ★

緑溢れるキャンパスを目指し、四季を通じて生徒や教職員、来校者の癒しの場となるよう植栽を実施します。2024年度は、南山中学高校友の会からの援助をいただきながら、体育館南側の法面の植栽を検討し、緑化を推進するとともに、「八事の森のミッションスクール」として自然環境の教育にも力を注ぎます。

2. 教育・研究

(1) 高等学校新教育課程への対応と検討 ★

高等学校の教育課程は、2022年度の1年生から年次進行で新課程に移行を始め、2024年度より全員が新教育課程となります。3年生は教育課程変更初年度であるため、情報の収集を行いながら、スムーズに移行できるよう、これまでの検討を踏まえて対応します。また、大学入試に関しても新課程を踏まえた入試内容に変更および具体化される年でもあるので、現状のカリキュラム構成において対応が不足している部分があれば見直すことができるよう、入試の状況を注視します。

(2) デジタル採点システムの導入 ★

2022年度からデジタル採点システムを採用し、より精度の高い生徒の成績管理とともに、教員の成績処理負担の軽減により、他業務へ割く時間の確保が実現できました。また入試採点の一部においても試験的に導入をしました。2024年度は、入試業務への本格導入へ向けての準備と、生徒の解答結果を、生徒所有の端末に直接送付するシステム構築等を検討することで、教員の採点業務についてさらに効率化が図れるよう、取り組みを継続します。

(3) 進路意識の涵養を目的とした高大連携の模索

本校では、生徒一人ひとりが自分自身を理解し、将来を考え、望む進路を拓いていくため、中学校1年生から系統立てたキャリア教育・進路指導を行っています。これに対し、総合学園の単位校である強みを生かして、高等学校1年生の進路オリエンテーションでの講演や模擬授業、単位校在籍生徒を

対象とした学園内オープンキャンパス、また育友会（PTA）主催による保護者向け大学見学会等を南山大学との高大連携事業として、2024年度も継続して実施します。これまでに培ってきた方針・指導を継続しつつ、より生徒に資する取り組みを南山大学とともに模索していきます。

（４）図書館の充実

「知の拠点」である図書館は、校内でアクセスのよい東校舎 1 階の生徒玄関の前にあり、日曜日を除いて毎日開館しています。現在の蔵書は 52,082 冊（2022 年度末）ですが、生徒および教員の希望図書を精査しながら、新しい書籍を積極的に購入し、6 万冊に達するように引き続き計画します。世界遺産の DVD やクラシック音楽の CD など視聴覚資料も充実しており、また図書館を「総合的な探究」の授業や図書館の利用を増加させる取り組みとして、時季ごとにテーマを設定し、関連図書を紹介する特設コーナーの設置や、飲食可能エリアの設置等について検討するとともに、十分な活用が出来ていない、校内の自習スペースについて見直しを図ります。

（５）生活指導

「安全・健康・美化」のテーマに沿って、主体的に生活実践できる生徒の育成に努めます。始業式や終業式の式典後に行う生徒への講話等を通じ、明確な指導方針を提示していきます。また合同ホームルームや講演会を開催し、自転車通学者に対する交通安全や学校内外での携帯電話の取扱い方、SNS との付き合い方等、その問題点を認識させ対処法を学ばせます。

（６）生徒の自治活動 ★

生徒自治会の自発的・積極的な活動は、男子部の大きな特徴の 1 つであり、一人ひとりの生徒にとって有意義なものとなっています。9 月の文化祭と 10 月の体育祭、3 月のスポーツ大会、児童養護施設の子どもたちを招待する 2 月のスプリングカーニバル、芸術鑑賞等コロナ禍以前の規模で実施する予定です。2023 年度は文化祭・体育祭ともに、生徒が主体的に計画し大成功のうちに終えることができました。2024 年度も引き続き展示の更なる充実や全体運営の向上が期待されます。生徒議会と各委員会は、学内環境の充実と美化、講演会等の文化活動、機関紙『南窓』の発行などに日常的に取り組み、他校との交流活動は可能な限り連携を図りながら取り組みます。

（７）部活動

部活動は自主性・創造性、他人を思いやることのできる人間の育成を目指します。心身ともに健康で安全な部活動が継続できるよう、事故防止の対策・啓発として、熱中症対策・感染症対応・AED 講習会等も開催しています。運動部ではバスケットボール部・野球部・ソフトテニス部・硬式テニス部・陸上部・卓球部・水泳部・サッカー部・ラグビー部・柔道部・アメリカンフットボール部・バドミントン部・剣道部など、各部が活発に活動しています。文化部では将棋部・アマチュア無線同好会・ブラスバンド部が各大会で活躍をしており、写真部・奇術部等々が外部の発表会に積極的に参加しています。なお、ブラスバンド部は女子部器楽部との合同コンサートを毎年開催しています。

（８）校外研修

教育活動は校内のみにとどまりません。生徒の多面的な成長や、主体的な学びの場、キャリア形成の一環として、多くの学年で校外研修の機会をもちます。中学校 1 年生では「山の生活」（自然体験活動および創立者墓参）、「市内探訪」（名古屋市市内諸施設を自主計画にて活動）、中学校 2 年生では「スキー訓練」「職業体験」、中学校 3 年生では「旅」および中学生全学年で行う東山動植物園での「写生大会」があります。高等学校 1 年生では大学訪問等の「オリエンテーション」、前述の「東京研修」、高等学校 2 年生では「修学旅行」を行います。いずれも 6 年間の男子部での教育の中でカリキュラムとして段階的にかつ、系統的に位置づけられて実施されます。

（９）海外研修

「国際的視野の育成」の観点から、「オーストラリア研修」と「ニュージーランド・ターム留学」の 2 つの海外語学研修を実施します。「オーストラリア研修」では、約 3 週間、ホームステイ先と学校の

2つの場で英語を使い学びながら、現地の文化や人々の考え方に触れ、多様な考え方を身につけます。「ニュージーランド・ターム留学」では、約3か月間現地生活を送ることでツールとしての英語を身につけます。研修中に学んだことが南山での学校生活、そしてその後の人生において大きな果実となるよう、内容の充実を図ります。さらに、2021年度より、夏休み中の5日間を使って「Global Studies Program(グローバル・スタディーズ・プログラム)」として、日本国内に留学している世界からの留学生をグループリーダーとして学校に招き、英語を用いてグループワークやプレゼンテーションを行っています。英語運用能力の向上に加え、異なる文化や考え方に対して理解を深めることを目的としています。

また、「イタリア・キリスト教文化研修」はこれまでに18回実施しました。12月末の8日間、クリスマスを祝うローマのサンピエトロ大聖堂、アッシジの聖フランチェスコ教会、フィレンツェ、ピサ、ミラノを訪れます。レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』で有名なサンタ・マリア・デル・グラッチェ教会やウフィツィー美術館、その他世界遺産となっている史跡を、教会のミサに参加しながら研修します。

3. 施設・設備

(1) ICT 教育環境の充実に向けた対応 ★

新規事業として高等学校でのPC1人1台体制を開始しますが、2023年度までに整備を終えている全ての専任教員へのノートPCの配備、全教室への電子黒板の配備に加え、2024年度は中学生へのPC1人1台体制の2年度目、非常勤講師が利用できるノートPC(Surface)の整備を実施し、ICT環境整備計画を実現・達成していきます。ICT機器の管理および教職員・生徒の利用支援を行う「ICT支援員」についても、継続して配置します。

4. 社会貢献

(1) 地域清掃 ★

地域を構成する一人としての自覚を持ち、高校の野球部員が毎週木曜日の朝に学校周辺からいりなか駅周辺までの清掃活動を行っています。近隣住民の方からも評価されており、引き続きこの活動を実施します。

(2) ボランティア活動

奇術部においては、老人福祉施設・子ども食堂・愛知県母子寡婦福祉連合会などの年間20カ所程度の施設を訪問しています。加えて、いりなか商店街の地域に貢献するイベントなどにも積極的に参加し、八事小学校トワイライトスクールへは毎月訪問しマジックを通じた交流を行っています。また、本校は青少年赤十字奉仕団にも登録しており、いのちと健康を大切にし、地域社会のために奉仕する活動を行います。

(3) 育友会による活動

生徒の保護者による組織である「育友会」では、柔道着リサイクル・式服リサイクル等の活動により、物品の有効活用を行っています。また、年2回行う講演会のうち、「秋の講演会」においては、著名人の講演を聴講できる機会として一般にも開放し、地域の文化向上にも貢献しています。

5. その他

(1) 学園内単位校における教職員の人事交流 ★

学園内単位校との人事交流に努め、より良い実践を共有することで活性化に繋がっていきます。特に同じ教科の教員が協働することで、「教科教育力」の向上を図ります。そのほか、学園内小中高連絡協議会、高大協議会、小中高協議会といった学園の会議体を通じて、他単位との情報交換や出席委員間の交流を行い、本校の運営や教育の向上・発展に努めます。

(2) 財政状況にかかる検討 ★

財政状況の改善に向けて2018年度より学納金改定を行いました。2036年度までは校舎建築の借

入金返済が続くことに加え、今後施設・設備の維持および更なる充実に向けた構想を実現するためには、資金の確保が必要です。また物価の高騰による光熱水費の上昇も学校運営には大きな打撃となっています。中長期的な視点での事業実施に必要な財源の維持を念頭に、予算執行においてはコストを十分に意識した執行を行うことはもちろんのこと、収入増加の方策を検討し、実行します。安定した生徒数の確保による生徒納付金収入の維持は必須として、生徒募集・広報活動と日々の教育の充実に努めます。補助金収入についても、更なる収入比率の増加に向けて、新たな補助金の獲得や、私学助成の拡大を求める活動に継続して取り組むとともに、2021年度から開始した寄附金募集については、クレジットカードによる寄附が可能となるよう新たな寄附金申込システムの導入に取り組めます。

以 上

2024年度南山高等学校・中学校(女子部)事業計画

★は「南山学園中期計画」(2020年度～2024年度)において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2024年度事業計画の概要

ICT環境という教育インフラの整備・更新、より一層の活用を図りつつ、学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」生きる人を育てるための、キリスト教精神に基づく人格教育を主軸とした6カ年の体系的な一貫教育の確立、校訓「高い人格・広い教養・強い責任感」の動機づけとなるよう教育活動を推進します。また、学内にとどまらない体験的な学びの場の継続・創造に努めます。

2024年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・国際交流準備委員会を立ち上げ、姉妹校提携や交換留学制度等の実現に向けて検討を開始します。
- ・Microsoft Office365を導入し、教育活動に活かします。
- ・東校舎第二被服室を技術科教室に改修します。
- ・3ヶ年計画のLED照明への交換第二期工事(2年目)を実施します。

2024年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・精神的なストレスを抱えた生徒に対して、きめ細やかなケアとサポート体制を継続します。
- ・生徒一人一台のタブレット等の端末環境を、授業のみならず多方面の学校活動に活かします。
- ・校内に整備されたICT環境をフル活用した授業実践、校務の効率化に努めます。
- ・卒業生チューターによる学習支援を行います。
- ・新体育館の建設に向け、引き続き学園内関係部署との折衝を行います。
- ・財政状況改善に向け、一般寄附金募集の周知を図るとともに、経費削減に努めます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 国際交流活動の拡充

「国際的視野の育成」を教育理念の一つに掲げていますが、人的な国際交流活動といった面ではまだまだ不十分と言わざるを得ません。具体的には、海外の学校との姉妹校提携がないこと、学校独自の留学制度や交換留学制度がないことが挙げられます。こういった点を拡充・強化すべく国際交流準備委員会を立ち上げ、概ね2年以内の実現を目途に国際交流のあり方を含めた検討を開始します。英語科教員のみならず教科横断的な教員組織づくりはもちろん、将来的には海外研修委員会の再編・拡充も視野に入れつつ準備を進めます。

(2) 新カリキュラムへの移行継続 ★

中学は2021年度に新カリキュラムを全面導入し、高校は2022年度から年次進行で新カリキュラムへ移行しています。2024年度は新たに高3が新カリキュラムに移行します。引き続き、教員にとっては新学習指導要領に沿った授業づくり、とりわけ総合的な学習および探究の授業については、さらなる研究を進めていきます。2022年度から採用した業者提供のプログラム(中1は「新しい大学入試問題-日本アクティブラーニング協会」、中2は「ソーシャルチェンジ-教育と探求社」、中3は「ENAGEED-エナジード」)の効果的な活用方法についても研究します。高校は探究的な学びとして、一人ひとりの興味関心に基づいた研究活動を実施していきます。随時振り返りを行い、その効果も見極めながら、また、大学入試の動向も見据えつつ、より良いカリキュラムの編成をめざします。

同時に、生徒にとっては7時間授業日が増えたことに伴う、生徒会活動や部活動などの課外活動へ

の影響も懸念されることから、そうした日常の課外活動および学校行事全般についても見直しを図ります。

(3) 南山国際高等学校・中学校から譲り受けたステンドグラスの設置

南山国際高等学校・中学校のチャペル入口にあったステンドグラス(よき牧者)を、女子部に移設しようとして校舎取り壊し前に譲り受け、設置場所を検討していましたが、多くの生徒たちが行き交う図書館入口に設置することを決定しました。南山国際高等学校・中学校ゆかりのものの一つが女子部に継承されていることは、何らかの形で同校関係者の方々にもお伝えします。

2. 教育・研究

(1) Microsoft Office365 の導入

iPad などの ICT 機器を用いた生徒たちの活動が一般的になってきましたが、iPad で Word などを使用するには Microsoft のアカウントが必要です。高 1 の情報科の授業や中学の総合的な学習の時間、高 1 高 2 の総合的な探究の時間にはレポート作成することも増えています。また中 3 の職場訪問や高 1 のキャリアトライアル(インターンシップ)では、訪問先とのやり取りにメールを使用したい場面も増えてきており、Office365 の導入により生徒・教員が充実した環境で教育活動が続けることが期待できます。

(2) ICT 環境を活かした校務の効率化 ★

教員の校務軽減および情報セキュリティ強化のため、2019 年度に学園共通統合型校務支援システム(スコール)を導入し、2022 年度から専任教員一人一台のノート PC 環境も整い、タブレット端末も併用しながら校務の効率化、ペーパーレス化等の経費削減に努めています。また、デジタル採点を 2023 年度に本格導入しましたが、まだ一部の教員が利用することにどまっています。2024 年度は利用拡大を図るとともに、高校でも観点別評価が実施され、考査においても観点別を考慮した作問が求められていることから、デジタル採点を利用することで設問ごとの分析や観点別評価を付ける一助としていきます。

(3) 女子部における部活動の将来像を考える ★

部活動が生徒たちの成長にとって重要なファクターの一つであるとの認識は持っていますが、一方で、「教員の働き方改革」をめぐる動向も見過ごすことはできません。公立学校における部活動の地域移行が進めば、多様な部活動の存在は私学の魅力の一つとしてさらに注目されるとの意見もあります。教員のみで顧問・指導者を務めるというこれまでの形を継続していくことは困難であるとの認識から出発し、他私学の動向・進捗を見ながら「女子部における部活動の将来像」について、まずは学内における議論を深めます。

3. 施設・設備

(1) 東校舎第二被服室の技術科教室への改修

中 2 の技術の授業はこれまで男子部テクノロジーセンターをお借りして行ってきましたが、技術科の専任教員の配置が完了したことに伴い、懸案だった生徒の移動時の安全や授業時間カット等の問題を解消すべく、東校舎第二被服室を技術科教室(木工教室)に改修します。必要なスペック(設備や備品)についても可能なかぎり整備します。

(2) 北・南校舎照明 LED 化工事

北・南校舎新築後、照明器具については東校舎を含め照明の LED 化が進んでおらず、旧来式の電材照明となっていました。2023 年度より 3 ヶ年計画の LED 化を開始しました。2024 年度も引き続き、北・南校舎の LED 化工事を実施します。現存する旧来式の電材の LED 化により、電球交換等の施設業務の大幅な削減および電力消費量の大幅な削減が期待できます。

4. その他

(1) 「家庭用学校生活ハンドブック」の発行

2023 年度より「ウェブでお知らせ」を導入し、日常の欠席・遅刻等の保護者との連絡・確認をウェブ

プ上で行うことになったことから、これまでその機能を果たしてきた「学校・家庭連絡簿」を、2024年度から「家庭用学校生活ハンドブック」に改めます。内容についても精査し、保護者に周知しておくべき事項を整理・追加します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) キリスト教精神に基づく人間観、世界観、学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」生きる人となるための価値観の醸成 ★

2023年度の入学式・感謝祭は人数制限等があるなかでのスタートとなりましたが、2023年5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行し、学校活動の多くが従来通りに戻ってきました。2024年度4月からは新しい校時表のもとで、朝の聖歌とお祈り、終礼時のお祈りを日々続けていきます。また、校長(指導司祭)による講話や放課後に生徒たちと協働で行われるミサも、月1回程度行っていきます。

宗教の授業を基軸としながら、中1・中2の静修会や中3・高2の研修旅行の折には、現地の教会をお借りするなどして宗教講話や共に祈りを捧げる時間を設け、各学年の事情に合わせて生徒たちの心の成長を促します。

クリスマスの時期には、全校生徒が参加するクリスマス聖式、中1希望者が参加するクリスマス修養会、音楽部員を中心としたクリスマス聖歌隊コンサート、器楽部員有志による医療施設でのクリスマスコンサートなども大切なミッションの機会と捉え、可能なかぎり実施します。

(2) 6ヵ年の体系的な一貫教育の確立 ★

中高6ヵ年の体系的な一貫教育の内容を科目ごとに明記した『中学学習の手引き(教科別)』・『高校学習の手引き(教科別)』をそれぞれ入学時に配付します。

また、年度初めに、学習についてのアドバイスやさまざまな学問分野の紹介、職業紹介、大学入試の仕組み等を詳述した『学年別進路の手引き』を中3から高3に配付します。秋には、主に卒業生の社会人や大学生等によるアドバイスをまとめた『進路の手引き・別冊』を全校生徒に配付します。6ヵ年のゆったりした流れのなかで生徒たちが自らの将来をじっくりと構想できるよう、合わせて計11冊の『進路の手引き』を在学中に配付します。

生徒たちが安全・安心に生活できるよう、主に中1～高1を対象とした、ネット情報やSNSとの関わり方を学ぶための各種講演会や出前授業を外部機関・団体の協力を得て実施します。中2では愛知県弁護士会による「いじめ予防出張教室」を引き続き実施します。

6ヵ年の縦のつながり・交流としては、生徒会活動や部活動はもちろん、文化祭や体育祭の行事を中高一緒に開催しています。

6月には、中1から高2まで芸術鑑賞会を実施します。2024年度は名古屋フィルハーモニー交響楽団による公演を予定しています(これまで、劇団四季等のミュージカル、落語、狂言、映画等の鑑賞を実施してきました)。

高3の3学期の特別授業では、6ヵ年の集大成として、高3担当以外の教員も授業を担当し、最終学年の最終学期にふさわしい有意義なものにします。

キャリア教育の一環として、卒業生を含めて外部から講師を招き、特別授業や講演会を実施します(これまで講師に、文化庁の文化財調査官、豊田中央研究所研究員、臨床心理士、弁護士、判事、医師、TV放送編成制作局員、一級建築士、日本モンキーセンター学芸員、ジャイアントパンダ飼育係、警察署少年係、自動車メーカーエンジニア、損害保険会社人事部社員、予備校講師、学生団体代表、さまざまな分野の専門家をお招きしました)。各種進路講演会の実施も検討します。

中1から中3までは「(中高一貫校向け)学力推移調査」、高1から高3までは「外部模試」を実施し、6ヵ年を通した系統的な学習・進路支援体制を推進します。

中高連携をより一層強化するため、「併設型中学校・高等学校」であるメリットを活かし、高校の教科書の中3で購入するなど中学の授業をより高度な内容にします。

(3) 精神的なストレスを抱えた生徒に対するケア、サポート体制の強化

精神的な不調を訴える生徒が増加傾向にあることから、2021年度からスクールカウンセラー(臨床心理士)の勤務を週3日に増やしました。生徒の多様化に伴い、広い視野をもったサポート体制をめざして教育相談とサポート委員会を一本化し、組織名を「教育相談委員会」と改めました。各学年会と連携してケアの必要な生徒の個別なサポートは、学年会とも十分相談して組織的に取り組みます。学年主任を中心とした隔週の報告会では、各学年の生徒が抱えている問題点などを共有します。教育相談委員会主任および補佐、養護教諭、生活指導部長、教頭、副校長、スクールカウンセラーで構成される報告会も毎月1回開きます。また、このような問題を抱える生徒との橋渡しになっている養護教諭が2022年度から3名体制となりサポート体制を強化しています。また、不調の一因ともなっている成績不振者への手当てを拡充すべく、2023年度から卒業生の協力を得る形でのチューター制を導入しており、2024年度も引き続き学習会参加者の充実を図ります。

(4) 家庭(保護者)とのより密接な連携の推進

家庭との密接な連携を推進していくため、学年別保護者会、クラス別保護者会、授業参観、個別面談だけでなく、部活動の保護者会も実施します。保護者対象の講演会、宗教講話も実施します。また、学年通信・クラス通信の拡充、2023年度から導入した「ウェブでお知らせ」を利用して、学年・クラスと家庭とのより一層の連携強化も図ります。

2. 教育・研究

(1) 生徒一人一台の端末を活用した授業や課外活動の実践研究 ★

2021年秋に校内無線LAN環境の整備(通信回線の増強)が完了し、BYAD(Bring Your Assigned Device)方式による生徒一人一台のタブレット等端末の活用を開始しました。端末使用の最低限のルールも生徒たちと協働で策定を終えましたが、教員間、教員・生徒間、生徒間での活用実践例を共有しつつ、この教育インフラの活用法についてさらに研究を進めます。授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」の利用にも慣れ、教員からの一方向ではない双方向型の授業に役立っています。また、オンライン動画講座の「スタディサプリ-リクルート」の利用も促進します。スタディサプリの利用状況は、中高全体で7割以上の生徒が複数回利用している状況で、高3は9割近い生徒が利用しています。中学生の視聴内容には高校の分野も含まれており、中高一貫教育を特色とする本校の実情が反映されているといえます。一方、高校生、特に高3は標準レベルの視聴も多く、受験を控えて学び直しのツールとしてこのスタディサプリを利用している状況が見られます。2023年度以降は、2025年度入試から導入される「情報」科目の講座も開設されており、より一層の利用が期待されます。

(2) 国際的視野の育成

新型コロナウイルスの影響で中止してきた3つの海外研修プログラムを2023年度は再開しました。2024年度もイギリス研修(ホームステイに変更)とベトナム研修(2023年度はカンボジア)を7月に、イタリア研修を12月にそれぞれ予定しています。新型コロナ禍、海外研修の代替として参加してきたDouble Helix(複数の外国人講師を招いてのディスカッションやプレゼンテーションを行う企画。関東の私学を中心に複数の学校が参加している)にも引き続き希望者が参加する予定です。2023年度はDouble Helix ; Translational Medicine 2023、Double Helix ; Ichikawa×Ohyu 2023に計6名が参加しました。英語科主催のEmpowerment Programという企画は、2023年度にGlobal Studies Programに改変し、男子部と合同で実施しました。自分の可能性を信じて人生の目標を設定し、グローバルな視点を持った主体的で責任感のある若者の育成を目的に掲げています。複数の外国人大学(院)生ファシ

リテーターが小グループに入り、グループディスカッションやプロジェクトに取り組む企画です。いずれも英語の受信力と発信力を向上させる効果が期待できるため、2024年度についても同様の企画の実施を検討しています。

(3) 男女別学の特色を生かした教育の推進 ★

愛知県下唯一の男女別学校という特色を生かすため、男子部プラスバンド部・女子部器楽部の「ジョイントコンサート」を開催します。その他、生徒自治会レベルでの交流も継続します。

(4) 特色ある教育づくり

2020年度より改称した「自然体験活動委員会」では、希望者対象のさまざまなプログラムを策定・実施します。2023年の春季休業中には「春の近江神宮散策と比叡山延暦寺ハイキング」、夏季休業中には「夏の北八ヶ岳・白駒池トレッキング」、「志摩の海辺で自然との共生を考えるフィールドワークツアー」、冬季休業中には「スキー体験」を実施しましたが、2024年度も教科横断的な学習資料を提供したり、専門ガイドからレクチャーを受けたりしながら体を動かして自然に触れる機会をつくります。

2009年度から世界117カ国が参加する文部科学省指定事業(2021年度にユネスコ「SDGs達成の担い手育成(ESD)推進事業」に名称変更)「地球学習観測プログラム(グローブ)」の指定校としてGLOBE委員会を設置し、生物・水質・大気の観測調査をしています。

2015年度に国立研究開発法人科学技術振興機構の「中高生の科学研究実践活動推進プログラム(学校活動型)」に採択されました。学校が主体となり、学校と大学等が連携・協働し、中高生自ら課題を発見し、科学的な手法にしたがって進める探究活動の継続的な取り組みを推進するプログラムです。2018年度でプログラムは終了しましたが、学校独自で引き続き活動を行います。

理科主催の特別企画として、中1での動物園実習、中2でのプラネタリウム見学、JAXAや国立天文台による授業やさまざまな分野の研究者による「出前授業」を行います。家庭科では、高1の「家庭基礎」で日本新聞協会が行っているNIE(Newspaper in Education)活動の「新聞切り抜きコンクール」への参加を継続します。また、家庭科と保健体育科が共同で2019年度に初めて実施した近隣の2つの保育園での保育実習(2023年度までの4年間は新型コロナウイルスの影響で中止)を再開します。社会科や国語科主催のフィールドワーク企画も引き続き計画します。

(5) 大学入学者選抜試験への対応

2021年度入試から実施された「大学入学共通テスト」の導入など、大学入試改革は大きな変革期のなかにあります。特に2025年度入試からは、新課程入試が始まり大きな変更が予想されます。文部科学省や各種教育産業からの情報なども分析しながら、必要な対策を実施します。

(6) 英書の多読の実施

英語科では、大学入学共通テストに向けて4技能(聞く、話す、読む、書く)の育成を図るため、中1から高2においては授業内、全学年で授業外の英書の多読活動を行います。また、希望者向けの朝多読や、休み時間でも使える読書室を設けます。将来的にはiPadを使つての多読、多聴が同時にできるようにします。2018年度より4年計画で英書を計約5,000冊購入し、充実した多読環境を整備してきましたが、2022年度以降はそれらの入れ替えについても随時行っています。

(7) キャリア・トライアル(職業体験プログラム)

2016年度からキャリア教育の一環として、高校生(高1・高2)の希望者を対象とした職業体験プログラムをスタートさせました。2022年度から新カリキュラムへ移行するのを契機に、高1の総合的な探究の時間の一環として組み入れ、全員が参加する形に拡充しました。ガイダンス・事前学習の後、3~5日間の職業体験に参加し、報告書をまとめます。中3を対象に、キャリア・トライアルの報告を含む高校生活全般や進路に関して、自分たちの経験を伝える場を設ける活動も行います。さらに、キャリア・トライアルから派生した課題解決型の職業体験プログラム(校内実施)も継続して実施する予定です。

(8) 性に関する教育

保健体育科・家庭科の授業で性に関する教育は実施していますが、中2と高2向けには、産婦人科医の方に実際に医療現場でどのような性の問題が起きているのかを、それぞれの対象学年に応じた講演をしていただき、自分の問題として考えていく機会を設けます。

(9) 教職員の研修・研究

教員の研鑽・自己点検に資するため、学校生活、学習、進路、行事等についての生徒アンケートを全学年で実施します。また、社会科教科会が積極的に行ってきた教員向けの公開授業のほか、ICT委員会の教育分科会がICTを活用した公開授業を実施するなど、スキルアップに努めます。

年に2回実施している教員研修については、教職員の意見を聞きながらニーズに合ったプログラムを策定します。また、研究助成金を利用しての外部研修への参加も促します。

2024年度の教育・研究活動をまとめた『年報』35号を発行し、教員の研鑽・相互学習を促します。

(10) 南山大学・南山大学附属小学校との連携の推進 ★

高校生に向けては南山大学学園内オープンキャンパスへの参加を呼びかけ、保護者向けには南山大学キャンパス見学会を実施します。総合学習の一環としては、高1を対象に南山大学の各学部による特別授業「南山大学セミナー」についても引き続き実施します。また、心理人間学科の先生に依頼して2019年度から始めた中2を対象としたアサーションプログラム(コミュニケーションスキルアップのための取り組み)も継続します。さらに、社会科主催の南山大学人類学博物館との連携によるワークショップも継続します。その他にも教育実習生、インターンシップ研修生としての南山大学の学生の受け入れなど、大学との協力関係を継続します。2022年度からは高3生の特別授業で、南山大学SDGs普及啓発団体CLOVERによる授業を実施していますが、引き続き連携を図っていきます。

南山大学附属小学校(以下、南山小学校)とは、小中高協議会や同引継ぎ分科会等のみならず、双方の教員が交流・意見交換できる機会を設けます。また、南山小学校の5年生を対象とした単位校見学会を実施しています。南山小学校出身者は女子部を志望する児童が多いにも関わらず、本校の内情をよく知らないまま志望するケースも多いと聞きます。そのような中で、志望校の検討をはじめこの時期に単位校を実際に見学するというのは有意義と感じています。現在は教員による説明と校舎見学のみですが、今後は在校生との交流なども検討し、本校の特色をこれまで以上に理解できる場とします。

(11) 卒業生チューターによる学習支援の継続

私学として、学びの保障は最優先事項と思われる。これまでも教員主導の各種補習や個別相談などは随時実施してきましたが、2023年度より生徒に近い目線での指導や支援・アドバイスを期待して、本校卒業生(大学生)をチューターとする自由学習会をスタートさせました。これは単に勉強を教えるというだけでなく、勉強の仕方、すなわち生徒の自立的学習習慣の定着を目的とするものです。また、学習だけに限らず日常の学校生活など教員目線では気がつかないことを相談にのれるケースもあると期待しています。2024年度も年10回程度、土曜日の午前中に中学生の希望者を対象に実施を計画しています。

3. 施設・設備

(1) 新体育館建設の検討 ★

建築基準法改正に伴い変更が生じた第1体育館建て替え計画を見直すため、専門委員会を設けており、引き続き学園内関係各署とも連携・折衝しながら建設用地等を含めた協議を進めます。

(2) ICTを活用した教育環境の保守・点検・更新 ★

ICT環境は一通り整備されましたが、これまでICTに精通した一部の教員に依存してきたことは確かです。今後の全学的な運用に際しては、日常的なICT環境の保守・点検・更新等については専門の支援員は必須であることから、ICT支援員を2022年度途中より配置しています。教員が本来の業務に

専念できるよう、授業時の ICT 機器のトラブル処理や教員のスキルアップを図るための人的整備について引き続き検討します。将来的には視聴覚業務との一本化を見据えています。

(3) 植栽管理についての検討

校舎建築から年月が経ち、また近年の気候変動により、植栽という資本を失っていく状況にあります。対処として、校舎建築当初のコンセプトおよび植栽の状況を熟知する業者のコンサルティングを活用して費用対効果の高い、かつ教育の観点もふまえたメンテナンスを引き続き検討します。また、猛暑対策として自動灌水システムの見直しも随時行います。

4. 社会貢献

(1) 地域清掃

近隣住民の方への感謝の気持ちも込めて、学校周辺の地域清掃を含む「一斉大掃除」を年に 3 回実施します。

(2) 募金活動

宗教活動委員会の呼びかけによる、クリスマス献金(教会を通じた世界児童福祉・国際協力援助・国内生活困窮者援助等のための献金)、および生徒自治会の呼びかけによる、学校祭収益金の寄附(社会福祉活動・国際医療活動・私学奨学金等)等の寄附活動を続けます。

東日本大震災直後に始まった、教員・生徒有志が協働しての「被災地支援チャリティーコンサート」(募金活動やチャリティーに関連した物品販売なども)を継続します。2023 年度は生徒会が中心となってウクライナやガザの現状を伝えつつ、生徒・教職員・保護者に呼びかけて募金を行い、ユニセフを通じて子どもたちへの支援に協力しました。2024 年度は能登半島地震被災者への支援にも何らかの形で関わるようになるかと思えます。今後こうした活動を通じて、他者の痛みや苦しみ、悲しみに寄り添う姿勢を育みます。

(3) ボランティア活動 ★

器楽部による医療施設などでのクリスマスコンサート(新型コロナ禍で中断中)、小百合会(主にボランティア活動を行う部)による特別養護老人ホームでの交流・催事等のお手伝い(同中断中)、希望者による献血を呼びかけるボランティア等を随時行なっています。こうした部活動の活動のみならず、キリスト教精神を理解し実践するため種々のボランティア活動への参加を奨励します。

(4) 地域貢献

バンテリンドームナゴヤや南山小学校グラウンド等で行われている日本サッカー協会主催ユニクロ共催の「JFA ユニクロサッカーキッズ企画(愛知県内児童対象)」に、サッカー部の生徒がボランティアで指導に参加しています。

5. その他

(1) 危機管理体制の確立

守衛室常駐体制を維持し、教員による授業中・放課後の校舎内巡回を継続します。また、不審者侵入時の緊急対応訓練を年 1 回(新型コロナ禍で中断中)、火災・地震対策のための避難訓練も年 2 回継続して実施します。2019 年度の内部監査で指摘のあった大災害発生後の事業継続計画(BCP)については策定を終え周知しましたが、訓練などを通じてブラッシュアップします。

危機管理委員会、災害対策本部、生活指導部、教育相談委員会、いじめ対策委員会等と、外部諸機関(警察・消防署・児童相談所・医療機関)の連携をより一層強化します。

緊急連絡等の体制については、2023 年度より導入した「ウェブでお知らせ」を活用します。宿泊を伴う学年行事等については、緊急事態発生時の対応マニュアルを整備して迅速な対応ができるように備えています。

(2) 広報活動の充実

学内における入試説明会(5 月)と学校説明会(11 月)の実施、年間 30 回以上の外部説明会・個別相談

会への参加を継続します。学校見学などの機会を増やすなどして受験生のニーズに応えます。また Web ページやフェイスブックのより一層の充実を図り、在校生、卒業生、家庭や地域などへ広く情報発信し、女子部への理解を深めてもらうよう努めます。

(3) 財政改善に向けた検討 ★

北・南校舎の建築から 15 年以上が経過し、2021 年度は空調機の全面入れ替えを行いました。他にも修繕等を要する箇所は多々あります。築約 60 年の第 1 体育館はもとより、築 30 年を過ぎた東校舎、とりわけトイレ設備の更新は喫緊の課題で、2023 年度に一部の更新工事(洋式化)を終えました。

ただ一方で、収支均衡に向けた財政改善に向けた努力もしていかなければなりません。2020 年度から開始した一般寄附金の募集については引き続き周知徹底を図るとともに、利便性を考えてクレジットカードによる寄附システムを導入します。事業計画等についても中・長期的な視点から精査することに努めます。

現在、新体育館建設に向けて学園内関係各署と連携・折衝を進めていますが、新体育館建設後の校舎のあり方(第 1 体育館や東校舎の将来像)といった点についても資金計画を含め検討を始めます。

以 上

2024年度聖霊高等学校・中学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2024年度事業計画の概要

1949年に名古屋市中区三の丸で誕生した本校は、2020年度に完成した瀬戸キャンパス内の新校舎で新たな出発を迎えました。南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」と本校創立時の建学の精神である「光の子として生活せよ」を中心に据え、多くの人々によって育まれた伝統的な教育を継承しながら、未来の聖霊生のために新しい時代に輝く学校を目指しています。

本校の発展のためにご支援くださった皆様のおかげをもちまして、2024年度に学校創立から75周年を迎えることができました。この喜びを「創立75周年記念式典」を含め6つの記念事業で分かち合います。

今後も伝統を継承しつつ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のためにICTによる学習環境を整えたり、職員の「働き方改革」を推し進めたりするなど、創立100周年へ向けてさらなる発展を目指します。

2024年度に新規で実施する主な事業は次のとおりです。

- ・行事の見直しや時鈴の整理等によって、より過ごしやすい学習・生活環境に改善します。
- ・部活動顧問の配置と活動時間・下校時間とスクールバスの運用等について、生徒にとってバランスのとれた心身の成長と学校生活となるよう、また効率的・効果的な教育効果が発揮されるものとなるよう環境改善に取り組みます。
- ・多くの経験豊富な教員が定年を迎える2028年度までに次世代の教員組織の育成を進め、安定した学校運営を継続するために、長期的視点に立った教員採用計画を立案します。

2023年度に継続して実施する主な事業は次のとおりです。

- ・担当チームにより「創立75周年記念行事」の成功に向けて、計画を立案し実行します。
- ・スクールバス事業、宿泊行事、卒業論文、文化祭、「EVE, My 青春!」、海外研修、部活動など本校の伝統であり、生命線とも言える数々の事業や教育内容について、更なる改善を検討します。
- ・中長期的な視点をもって、今後必要となる施設設備の維持管理や機器整備を検討します。
- ・中学および高校での1人1台端末の利用がそれぞれ1年生より年次進行でスタートします。今後もさらにICT教育環境整備計画の検討を深め実践します。
- ・教育で「選ばれる学校」となるよう、全教職員で志願者確保に向けての課題と目標を共有し、一体となって広報活動を強化します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 伝統の継承と改革

1949（昭和24）年に名古屋市中区三の丸に名古屋聖霊学園中学校が開校、そして1952（昭和27）年に名古屋聖霊学園高等学校が開校しました。さらに1995（平成7）年には名古屋聖霊学園は、南山学園と合併し現在に至っています。1949年開校時の教職員は全員退職され、第2期にあたる現在55歳を超える年齢の教職員も全員の退職まで10年を切りました。ここまでは聖職者、特にシスター方との生活を経験しながらカトリックのことや聖霊高等学校・中学校の理解を深めましたが、第3期にあたる教職員は、建学の精神が一番の頼りとなります。

他私学を見渡したとき、キリスト教の学校でなくてもその精神を感じる学校があります。多くは、明治時代で創設者が欧米を訪問し学び、その精神を軸に学校を創設していることが少なくありません。女子校においては、さらに女性の生き方が説かれています。あらためて、「神言修道会」「聖霊奉侍布教修道女会（以下聖霊会）」を創設されたアーノルド・ヤンセン神父が向かっていた「神のみ旨」や南山学園・聖霊高等学校・中学校の建学の精神と教育理念について、そしてその教育活動の蓄積・伝統について振り返るとともに、聖霊高等学校・中学校でのミッション・働く目的・幸福感等を重ね合わせ、社会からの要請にどのように向き合うべきかを想像し、先達の財産を糧としてより良い教育のため、変化を恐れずに改善を重ねていきます。

2. 教育研究

(1) 学習・生活環境の改善

現校舎での生活が5年目に入りますが、学年朝礼に求められる内容と方法を実現するための見直し、行事に合わせた運用が増えて複雑化した時鈴の整理、ペーパーレス化推進と校内で取り扱う文書をAサイズへの統一を図るなど、時代の流れに合わせた環境改善を行い、より効率的で過ごしやすい学習・生活環境へと整備を進めます。

(2) 部活動の改革

2023年度に部活動改革のための諮問機関として校内に設置した部活動検討委員会が校長に答申した内容を受けて、本校の部活動が生徒にとってバランスのとれた心身の成長と学校生活となるよう、また効率的・効果的な教育効果が発揮されるものとなるよう、全員顧問制の維持を前提に顧問配置の変更・活動時間の短縮・スクールバスの運用等についての総合的な改善プランを試行します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) キリスト教に基づく全人教育の継承と宗教教育の確認

宗教の授業、学年ごとに実施される朝礼、中学1年生の修養会から高校3年生の静修の日そして卒業式へと中高一貫で進められる宗教行事と、生徒の実態や時代にふさわしい改善を常に意識しながら、本校の校風にふさわしい宗教教育の確立を目指します。そして、教員一人ひとりのことば一言にさえも本校の教育の精神が宿るように、引き続き全教職員で聖霊教育の基本精神の共有を進めます。

(2) 創立75周年記念行事に向けて

2022年度に設置した「創立75周年記念行事企画運営チーム」を中心に、2024年度に迎える式典・記念講演・記念行事・記念誌の作成などを計画・準備しています。「関わっていただいた方々への感謝を表す・100周年に向けて継承する」をテーマに、次の6つの事業を進めます。

- ① 式典・記念講演 聖霊会からシスターを招いて創立記念式典にてご講演いただきます。
- ② 記念行事/全校スポーツ大会 創立50周年記念行事で実施した同大会をイメージして実施します。
- ③ 写真アルバム&アーカイブズ 創立50周年記念行事で発行された同記念誌の続きをまとめます。
- ④ 聖霊会&聖霊中高アーカイブズ 聖霊会と聖霊高等学校・中学校の歩みを記念誌にまとめます。
- ⑤ 記念事業 大型御像 キリスト教センターのサポートをいただき「聖家族像」を設置します。
- ⑥ 冬コート・体操服見直し 冬コートのデザインは変更せず軽量化を図ります。体操服は素材・デザインともに一新します。

この他に、父母の会カリタス・同窓会・ともの会による記念事業も計画しています。

(3) 本キャンパスでの新しい教育の構築と教育的活用 ★

2020年度から2022年度にかけては、新型コロナウイルス感染症対策のために様々な制限をせざるを得ませんでした。2023年度は、感染症対策としてのあらゆる制限を緩和していくような新しい局面を迎えました。2024年度は、感染予防の基礎基本を大切にしながら、さらに推し進めます。

現校舎の生活も、5年目に入りようやく慣れてきたところですが、すべての生徒が互いの素顔を見ながらのびのびと活動していけるよう、文化祭・式典などの学校行事をさらに充実させていきます。また、オープンスクールなどの多くの方々の来校を伴う企画や日常の学習活動や課外活動における施設設備使用について、様々な視点から実施場所、実施要項などを確認し、年間を通して教育上有効な活用方法を継続してさらに工夫を重ねていきます。

(4) スクールバスの財政改善 ★

南山学園理事会の助言を仰ぎながら、父母の会カリタスやスクールバス聖友会会員との間で持続可能な財務体質への改善について意見交流を進めています。2021年度から開始した10年間規模の財政改善計画に則り、2023年度以降もスクールバス利用者に対する会費等負担の適正化に向けた効果検証と、路線の改廃を含む事業規模の適正化をはじめ、停留所の見直しや便数の削減などによる管理経費支出の圧縮を進めることなど、継続的に財政課題を検討していきます。その一環として、本校が“選ばれる学校”であり続けるために「スクールバス事業のVision 2030」を2023年度に策定しました。

このスクールバス事業の将来像を基に南山学園総合教育研究支援基金による南山学園からの財政支援をお願いしたところ、2023年度以降の5年間について、スクールバスの燃料費援助を決定していただきました。このことによって、本校の生徒募集・教育活動の生命線であるスクールバスの安定した運営に向けて、南山学園としての継続的なご支援を受けられる運びとなりました。

(5) 「EVE, My 青春！」の継続実施 ★

この行事は、本校の伝統行事として2023年度で42回目となりました。おかげさまで、2023年度も愛知芸術文化センター・コンサートホールと旧もちの木広場（現メディアヒロバ）にて多くの来場者に温かく迎えられました。2024年度も引き続き開催します。開催場所の確保と実施方法について、当初の計画を安定的に開催するため、学校内外の関係性を高め、伝統を引き継ぎつつ、これまで以上に十分に準備し成功に向けて努力します。

(6) オーストラリア海外研修の再開およびアイルランド語学研修に代わる新たな案の立上げ ★

オーストラリア海外研修は、相手国での受け入れ態勢が整ったため2024年度から実施できることとなりました。現地校のMount St. Joseph Girls' College (MSJ校) の状況やニーズに合わせて、滞在期間・参加人数・プログラムなどを改善しています。

アイルランド語学研修は、生徒たちが海外の土を踏めない社会情勢にある中、何とか本校の目指す海外での学びを継続していくため、2023年度にオーストラリア海外研修の代替で行ったニュージーランド語学研修を催行し異文化交流の体験や学びを経験させるように計画を進めています。

2. 教育・研究

(1) ICT教育機器の運用と教育活動での活用の研究 ★

新校舎移転を機に、教員用PCの活用方法などICT教育機器運用や、学習指導における効果的な活用や校務における運用等について更なる研究開発を進めてきました。2024年度から中学および高校で生徒1人1台タブレット端末利用を年次進行でスタートします。今後もさらにICT教育環境整備計画の検討を深め実践します。

新学習指導要領における「教育の情報化」への対応と聖霊のヴィジョン、生徒・保護者の高いニーズを実現するため、聖霊高等学校・中学校におけるICT教育環境整備計画を立て（第1期：2019～2023年度）、これまで学習者・指導者用コンピュータを一部導入したりインターネット環境を整えたり大型提示装置や

学習用ツールを設置するなど下地を作ってきました。またより一層セキュリティに対する意識を高めるための体制づくりを行ってきました。

2023年9月に聖霊高等学校・中学校におけるICT教育環境整備計画（第2期：2024～2028年度）を策定し、次の段階へと進んでいます。2024年度の新中学1年生・高校1年生から生徒用iPadを年次進行で導入します。2026年度には生徒用タブレット端末の一人1台体制が完成し、学校内での人材育成やスキル獲得が可能になります。

（2）大学入学共通テストへの対応 ★

過去数年間にわたって変革の時期にある大学入学共通テストへの備えについては、進路指導部の情報収集力を基盤に対応してきました。今後も、大学入学共通テストに対して最新の動向を踏まえつつ、生徒に対して模擬試験受験を積極的に勧めながら、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、一丸となって生徒の指導にあたります。

（3）本校における中学・高校の教育課程の共有と進行 ★

高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習について校内での研修を進めました。2022年度高校1年生から年次進行で適用し、2024年度に完成します。中学生徒募集から高校卒業後の進路指導までの六年一貫の指導の過程を継続的に研究します。新たな教育課程に向けて研鑽を積み重ね、教育で「選ばれる学校」となるよう努力し続けるとともに、本校独自の教育課程が持つ可能性について積極的に広報活動を展開します。

（4）授業補助員の試験的な配置の継続

2022・2023年度に、中学1年生数学の授業に、授業補助員を各クラス週1時間、試験的に配置しました。様々な事情で学習の進捗が異なる生徒に対して細かなサポートができることで円滑に授業を展開することができ、生徒の学習意欲の維持向上に期待できるため、2024年度も引き続き試験的に授業補助員を配置します。2025年度を目標に、制度化の検討を進めます。

（5）教職員研修の充実

2023年度は、生活上の安全確保をテーマに危機管理（ハラスメント）や不審者対応について研修を行いました。2024年度は、「日常生活に対応する」をテーマに危機管理（個人情報保護とハラスメント）はもちろんのこと、アンガーマネジメントやAED講習（教職員の防災訓練）などをタイミング良く実施します。

（6）部活動全般の見直しを推進

本校では部活動を教育の三本柱の一つである「情操教育」と位置づけています。働き方改革も視野に入れながら、より豊かな学びの場・より円滑な運営を目指し、教員の高い意識による指導・部活動と部顧問の的確な数を見定めた任命など、教育活動・指導の機会としての見直しを継続します。

「学校が目指す働き方改革」（スタッフ素案）の下、2022年度から設置した部活動検討委員会において、部活動顧問配置のあり方、部活動指導に対する教員の意欲、生徒の帰宅時間に合わせたスクールバス運用や自習環境の確保、部活動に対する金銭的補助など、広く情報収集を行いつつ様々な改革の方向性を模索してきました。

同委員会からの答申を受けて、2024年度には総合的改善プランを4月から試行します。また、父母の会カリタスからの援助金制度の見直しを確定します。

引き続き、生徒の安全を確保しつつ持続可能な課外活動支援を目指します。

（7）南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携 ★

南山大学附属小学校から本校へ、さらに本校から南山大学への学園内一貫教育の流れを積極的に紹介し、部活動、文化活動での生徒児童間の交流や提携などを深めます。継続して行われている南山大学学園内見学会や中学校・高校同士の生徒会・部活動を通じた交流、南山大学附属小学校での学校説明会と本校での学校見学会を引き続き実施します。

南山大学附属小学校から本校を志望する児童の増加に合わせ、受入体制の今後について学園小中高連絡協議会等において議論を深め、既存の入試制度とのバランスを図っていきます。

(8) 職業体験やキャリア指導、進路指導の充実 ★

2023年度も多くの方の協力を得ることができ、高校生の活動としての校外事業所でのインターンシップなどを実施することができました。中学3年生のハローワーク講座も実施でき、貴重なキャリア指導の機会と捉え、さらに充実させます。それぞれの学年にふさわしい職業観を育成することを目標に、今後も活動の継続を目指します。

3. 施設・設備

(1) 既存施設設備整備の検討 ★

より安心・安全な学校生活と魅力あるキャンパスづくりを進める中で、第2体育館（旧M棟）や研究棟の防水工事など、補修や改修の必要性を見極めて整備計画を推進します。

(2) 旧修道院の改修についての検討 ★

キャンパスと旧修道院は隣接していることで活用範囲は広く考えられるものの、補修や維持管理経費の必要性も無視できません。聖堂の利用を中心とした今後の活用方法や、補修・維持管理について現実的に検討を進めています。

4. 社会貢献

(1) 募金活動 ★

聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒による献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続けています。国内外の自然災害による罹災・戦争紛争による被災・生活困難地域に向けて、生徒会や学年単位での活動、DAC(Discussion Action Circle)部などによる10年を超える長期的な街頭募金活動等を最大限で推進します。

(2) ボランティア活動 ★

幼児・高齢者施設の訪問や子ども食堂のサポートなど日常的な支援活動を行っています。また、東日本大震災、熊本地震、シリア・トルコ地震、シリア・イラク戦争、ロシア・ウクライナ戦争、イスラエル・ガザ戦争などの出来事と人々の苦しみを忘れない（記憶する）活動を、粛々と進めます。

(3) 地域との連携 ★

創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」では、全校生徒から集められた花束を瀬戸市長はじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届けてきました。コロナ禍以前に盛り上がりを見せた地元幡山地区および山口地区の自治組織や瀬戸市観光協会との連携のほか、中学3年生の職業体験などにおいても瀬戸市を中心とした事業所への連携協力の多くについては再開をお願いできる時期に来ているのではないかと期待しています。既に部活動を中心に、例えば和太鼓部が祭に呼ばれたりオーケストラ部や聖歌隊が演奏したりしています。また運動部は合同練習や試合と一緒に活動しています。「コロナ禍にあってもできること」の精神を引き継ぎ、地域の皆様との間でこれまで築き上げてきた関係を今後も大切にしながらコロナ禍後の連携に注力したいと思っています。

5. その他

(1) 働き方改革についての検討 ★

役職人事や部署や教科の配置および配属人数等、校務分掌全体の組織改編についてはひとまず落ち着きましたが、勤務時間内での会議のあり方、部活動、学校週番、退勤時刻や校舎管理方法など、働き方改革の視点からの総点検を継続します。

2023年度秋に、「学校が目指す働き方改革」（スタッフ素案）を運営委員会で共有しました。素案は一言で言うと「年間を通して冬時鈴とする」というものですが、現在の仕事の状況や教職員の意識改革に鑑み、一定の時間をかけて丁寧に進めるほか、議論を通して改善案が示された場合はスムーズに移行することを

視野に入れて進めます。内実ともに聖霊高等学校・中学校の建学精神を中心に据えた教育活動の充実とともに、法令や時代に合った最善の働き方を目指し研究を進めます。

(2) ICT 機器の教育活動における活用の推進と財政計画 ★

ICT 機器を利用した教育実現のための年次計画（ICT 教育環境整備 5 か年計画）を、次の 5 か年を見据えて更新しました。今後は、年次計画（ICT 教育環境整備 5 か年計画 第 2 期：2024～2028 年度）に基づいて、諸課題の見える化と慎重な議論を重ね試行錯誤を続けます。

一部の機器やシステム、アプリケーションを試験的に先行導入することや外部研修会等を通して授業研究は加速させていますが、「教育の中身として何が発信できるか」「生徒たちにどう働きかけるか」「ICT 機器を使いこなすことができるか」など、ICT 教育の前提として学校として共有すべき課題を今後も一つひとつ解決していきます。

一方で、こうした ICT 教育環境を整備し、かつ維持していくためには、長期的かつ大規模な予算を必要とすることであるため、補助金を獲得してもなお学校にとって大きな財政的負担となります。教育効果とそれに見合うコストを見極め、引き続き費用負担の在り方を含めた適切な財政計画を検討していきます。

(3) 学校財政の安定化 ★

学納金改定の中長期的な計画、経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等、財政面における収支均衡を目標として収入確保に向けて努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、主体的な目線で中長期および単年度の事業計画立案を進めてきました。引き続き、予算執行段階においても精査しつつ、支出の抑制に努めることにより学校財政の安定化を図ります。また省エネルギーなどの徹底も、教職員一体となって推進します。

以 上

2024年度聖園女学院高等学校・中学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2024年度事業計画の概要

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを踏まえ、これまで以上に生徒が満足できる学習環境の構築に向けて、宗教教育や国際教育の伝統を継承しつつ、一部教科の習熟度別授業および加速するICT化への対応など、教育内容・環境の充実を進めます。また、進路指導の一環としての南山大学および上智大学との高大連携を強化します。

さらに、本校にとって喫緊の課題である定員確保および財政状況の改善に向けて、2024年度から開始した高校入試に関する広報活動を強化していきます。

2024年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・自然環境教育の一環としてMISONO竹林プロジェクトを実施します。
- ・高校現地研修の行程について見直し、未来に向けた学びにつながることで、保護者や生徒のニーズに合わせた行程として変更します。
- ・老朽化した高校棟脇外灯、受変電設備高圧機器および高圧ケーブル、PBXの更新工事を実施します。
- ・生徒が侵入し誤って転落などの事故が発生しないよう、安全面に考慮し芸術棟および東棟の侵入防止柵の取り付けを実施します。
- ・システムのサポート期限を迎えた校納金システムについて入れ替えを行います。

2024年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・新たに2024年度入試として開始した高校入試に関する広報活動をさらに強化していきます。
- ・2024年度入試から導入した特待適性検査型入試、英語チャレンジ入試、得意1科入試の結果を分析し、さらなる志願者確保につなげていきます。
- ・進路先として南山大学をより意識できるよう、南山大学と様々な教育連携を計画、実行します。
- ・進路指導の一環として、上智大学と様々な教育連携を計画、実行します。
- ・教育環境の改善として、中学棟および高校棟のトイレ改修工事を継続します。

II. 新規事業

1. 教育・研究

(1) 自然環境教育【MISONO竹林プロジェクト】 ★

竹林の適正な間伐や更新を進めながら、ESD（持続可能な開発のための教育）の実践を目指します。校外との連携とその関わりから、自然環境の保全・整備に対する理解を深め、竹や竹炭を利用した製品の創作・探究的活動に繋がります。出来上がった製品は、聖園祭で販売します。全学年希望者を対象とし、プロジェクトメンバーとして関わることができる体験活動プログラムとします。

(2) 高校現地研修の行程見直し ★

長年にわたり宗教教育・平和教育を軸に研修を進めてまいりましたが、毎年の実施報告の内容を検討し、宗教教育・平和教育に加え、未来に目を向けた学びの機会を設けることといたしました。行程を一部変更しSDGsの取り組みを長く続けている企業の環境講話を受講します。また、環境改善を実現した現地の状況を肌で感じることで、未来を切り拓く女性としての育成を目指します。

2. 施設・設備

(1) 老朽化設備の更新工事（高校棟脇外灯、受変電設備等、PBX）

更新の目安をすでに超過した設備（高校棟脇外灯、受変電設備等、PBX）に関して更新工事を行います。更新工事を実施することで、設備の老朽化による故障リスクが低減することが見込めます。

(2) 芸術棟・東棟非常階段フェンス工事

現状は、芸術棟・東棟ともに非常階段は簡易的な鎖での閉鎖のみとなっており、生徒が誤って侵入し、転落等の事故につながる可能性を危惧しています。3階建ての外階段のため生徒が侵入し誤って転落などの事故が発生しないよう、安全面に考慮し侵入防止柵を取り付けることで転落等の事故防止に繋がります。

(3) 新校納金システム導入

事務室において、授業料引落機能の他、生徒情報帳票等の出力をするシステムを利用していますが、システムのサポート終了を迎えることから、新校納金システムを導入することとしました。導入によって安定したシステム環境を確保することができます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 高校入試のさらなる志願者確保 ★

聖園女学院にふさわしい生徒を迎え入れる機会を広げるため、新たに2024年度入試として高校入試を開始しました。これまで中高一貫教育を掲げて参りましたが、内部進学生に加え、公立中学校等で学んできた生徒も受け入れ、生徒が互いに刺激し合い成長できることを目指します。どの時点でも入学された生徒全員が“聖園生”としての自覚と誇りを持ち、実りある学校生活を送れるよう、教職員一同サポートして参ります。2024年度入試では当初の見込みを大きく上回る入学者を受け入れることができました。2025年度入試に向けてさらなる志願者を確保できるよう入試広報活動の強化に努めて参ります。

(2) 中学入試制度変更の検証と見直しおよび校風調査の実施 ★

2024年度入試において新たに導入した特色型入試（特待適性検査型入試、英語チャレンジ入試）や従来型入試に加えた工夫について、入試結果の分析や入学者の追跡調査により、入試制度変更の効果を多角的に検証します。より多くの受験生に入学校として選ばれるよう、特に入試の山場と言われる2月1日・2日の入試に関して、2024年度の検証結果をもとに検討し、その内容を2025年度入試に反映いたします。

また、学校の取り組みやイメージを客観的に点検するために、教育研究所による「私立中学の校風調査」に参加し、そこで得られた結果を2025年度以降の広報活動に反映いたします。

(3) 南山大学との教育連携の強化 ★

5月に本校で行われる生徒・保護者対象の南山大学説明会や、6月に南山大学で行われる学園内オープンキャンパスへの参加などを通じて、南山大学をより深く知る取り組みを継続します。また、夏期休業中の南山大学教員による出前授業や、中学3年生の総合的な学習の時間を利用した出前授業など、南山大学での学びを知る取り組みも継続して行います。これらの取り組みにより、南山大学への関心や、大学での学びに対する関心を高めます。

(4) 上智大学との教育連携の強化 ★

2022年度から高大連携の一環として上智大学との教育連携を行っています。上智大学教員による出前授業や、上智大学での授業への参加を行い生徒が大学の学びや研究に触れる機会をつくっています。これらの学びを通じ、生徒の大学における学習に対する目的意識や、進学をはじめとした将来に対する意識の向上を目指します。

また、2023年10月1日付で上智大学と高大連携協定を締結しました。この協定によってカトリックの教育理念のさらなる深化を図るとともに、相互の交流や連携を通じて生徒の学習意欲を高め、可能性を広げる取り組みを一層進めてまいります。

(5) 宗教性の涵養 ★

年4回のミサ、講堂朝礼での祈り・講話と聖歌、5月と10月のロザリオの祈り、中学1年生のキャンドルサービス、『クリスマスの祈り&クリスマスキャロル』を含むクリスマス行事など、カトリック校ならではの体験を通して生徒の宗教性を涵養します。

(6) 国際性の涵養 ★

海外研修（ニュージーランド中・長期留学、カナダ研修）、Misono English Academy（MEA）、Global Education at Misono（GEM）、Advanced Class of English（ACE）などを通して、生徒の国際性を涵養します。UPAS（University Pathway Admission Service）加盟校として、推薦入試制度を利用した海外大学進学支援を行います。UPASの説明会を随時お知らせしていきます。

また、2024年2～3月にかけて南山大学留学生別科生と、オンラインおよび対面で実施した交流イベント“Global Friends”を2024年度はさらに充実させ、留学生との交流を通し多様な文化・価値観に触れ、相手を尊重し協力しようとする心を育み、母語が英語でない者同士でも英語でコミュニケーションができる喜びを体感する場所を拡充します。

(7) 総合力育成 ★

課題解決のための思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指します。中学生の総合的な学習の時間では、学びの基本技能である「調べる・まとめる・表す」の力を高めることをテーマとします。高校生の総合的な探究の時間では、課題解決の基本技能である「対話・提案・質疑応答」の力を高めることをテーマとします。また、外部とのつながりを持ちながら、さらに活発な学習環境を整えてまいります。

2. 教育・研究

(1) 習熟度別授業の実施 ★

学習指導において、特に数学のつまづきを解消するべく放課後の補習・講習を始め対応してきました。あわせて2023年度から開始した中1・中2の代数での習熟度別授業を引き続き実施します。生徒の学力に応じた授業を展開することで、理解し正答を導き出す達成感を得させ、数学への苦手意識を克服し、学習意欲を高めます。

(2) 補習・講習・自習 ★

長期休業中の補習・講習・自習について、教科横断型の内容や外部講師による講習など、様々な形態の取り組みも積極的に取り入れられる環境を整えます。

(3) 放課後学習支援 ★

自主的な学習習慣を定着させるために、平日18時まで授業の予習復習、宿題をはじめ、検定試験、大学入試に備えた学習環境を充実させます。外部業者を利用した大学生によるメンター制度の導入と教科・クラス担当者による指導により、より効果的な活用を促します。受験支援については外部講師を招聘し、高校生を対象とした希望者への大学受験対策講座を実施します。これらの学習支援を通じ、生徒の学力の向上、進学実績の向上を目指します。

3. 施設・設備

(1) 高校・中学棟トイレ改修工事 ★

便器以外の設備については竣工以来30年以上が経過しており、経年の劣化や汚れが目立っており、2023年度から3年計画で改修を計画しました。2023年度には高校棟3階および中学棟2階部分の改修工事を完了したため、引き続き2024年度は高校棟2階および中学棟1階も改修を進め各学年の衛生面の改善を図っていきます。

4. 社会貢献

(1) ボランティア活動 ★

生徒が主体的にボランティア活動に参加し、取り組めるようサポート体制を作るとともに、社会福祉への関心を高め、活動を通して学びあい、「たすけあいの心」を育みます。主な活動として、社会福祉施設「聖園子供の家」でのボランティア活動、支援のための募金活動（WARM HEARTS COFFEE CLUB・被災地募金・クリスマス募金・赤い羽根共同募金）を継続して実施します。その他、聖園祭・クリスマス行事におけるチャリティーの純益金を社会福祉活動、国際協力援助のために寄附します。

5. その他

(1) 神奈川私学修学支援センター利用

登校困難な生徒への支援を目的とした神奈川私学修学支援センターの利用により、卒業を目指した学習活動が継続できるよう、センターと連携し、支援を継続します。

(2) 他校との交流 ★

高校1年生の家庭基礎の授業において、聖園マリア幼稚園の園児を本校に招いて、保育実習を行います。授業で「幼児の心身と社会性の発達」について学んだ生徒たちが、手作りの名札や遊び方の道具を制作して園児を迎えます。本行事をはじめ今後もさらに学園内連携を推し進めていきます。

以 上

2024年度南山大学附属小学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2024年度事業計画の概要

本校は、「校訓^{*}を体現する児童」「知的・精神的側面において高度に磨かれた児童」「真のリーダーシップを発揮する児童」「自らに与えられた使命を自覚する児童」の育成を目指しています。2023年度も引き続きこの目標に向け、全学年にわたり、家庭および地域との教育連携を得ながら、一人ひとりの児童を慈しみ深く、時に厳しく育てました。特に2023年度は、コロナ禍で縮小された行事等を元に戻す方向をより進めましたが2024年度は、元に戻すことに加えてさらに南山小らしい行事に進化させていきます。また、本校が南山学園共通の教育モットー「人間の尊厳のために」を実現するために存在していることを忘れず、児童がよりいっそう生き生きと学校生活を過ごすことができるように考えて実行していきます。

2024年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・2022年度に準備していた St. Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携を目指します。
- ・デジタル採点システムの導入と ICT 機器の大幅な更新をします。

2024年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・宿泊学習のあり方について考え、新しい宿泊学習を提案していきます。
- ・学園内連携推進協議会のもと、大学・高校・中学との連携の継続を図ります。

*校訓

かけがえのないあなたと私のために 神さまに愛されていることを 知る人になろう みんなで助けあって 生きる人になろう 最後まであきらめず 努力する人になろう まわりの人やものを 愛する人になろう
--

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) St Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて

2023年度に実施しなかった第6学年の海外研修(オーストラリア・シドニー)を実施し、St. Brigid's Catholic Primary School と姉妹校提携を結ぶ予定です。Our Lady of the Angels Primary School(2019年度提携校)とは、持続的に相互交流活動を実施していくことで一致しています。

(2) デジタル採点システムの導入と ICT 機器の大幅な更新

2024年度当初よりデジタル採点システムを試験的に導入します。2年生に一人一台 iPad のリース契約をすることで全学年一人一台端末を整備します(1年生は現存の共用機貸出)。これに伴い、クラウド上でフィルタリングを管理するとともに学習 e ポータルと SS0 (シングルサインオン) の導入をします。校内配信システム (メディアエッジ) の更新や体育館後方へのプロジェクターの設置を行います。また、これらも含め、ICT を活用した指導方法の研修を進めていきます。

III. 継続事業

1. 学校全体

(1) 感染状況に対応した宿泊学習の実施

新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策を十分に行い、2024年度の宿泊学習が安全に実施できるよう準備を行います。また、2027年度に予定している大幅な見直しに向け、感染対策にも配慮した安心で安全な宿泊学習の計画の立案を進めます。

(2) 家庭との連携 ★

「かけがえのないあなたと私のために」の理念を実現するために、受容的な学校風土づくりに努めていきます。そのため、本校の教員が主体となり保護者と交流する活動に力を入れます。

教育的配慮が個別に必要な児童に対しては、家庭との連携を積極的に図り、継続的な面談による支援を行います。学習支援が必要な児童に対しては、相談や助言を行います。

保護者への連絡を丁寧にし、保護者との連携をさらに深め、児童の学校生活や家庭生活がともにより豊かなものとなることを目指します。本校の考えをよりよく理解していただくとともに、保護者の考えも理解できるようにします。保護者アンケートを踏まえて、改善に向けて真摯に取り組みます。

2. 教育・研究

(1) 学習指導

2024年度も自分の学びを豊かに表現することができる子の育成を目指して研究に取り組みます。2018、2019年度に「真教育研究会」を行い、新・「真教育」について研究を進めましたが、コロナ禍が過ぎた現在、再度真教育の研究を深めて、あり方を探究します。また、「真教育」の精神に根ざした学習指導の具現化を図ります。

(2) 英語教育

2024年度も、コミュニケーション能力の育成と実践の場で活用できる姿勢・能力の育成を一層重視した指導について、研究的な実践を積み重ねます。安心して英語にふれあうことができる環境づくりを意識し、英語科教員との交流の場を新規の学習サポートとして展開します。また、異文化交流については、新たな交流先を探して交流を続けていきます。

(3) ICTを活用した教育

他校に比べて遅れをとっていた1人1台端末の整備を早急に進め、2024年度内の実現を図ります。また、児童個々の端末から学習eポータルを利用できるようにすることで、学習支援アプリやデジタル教科書などの活用の利便性を向上させます。情報機器に関する新規事業や教師力向上に関する継続事業と関連させながら、個別最適な学びや協働的な学びの実現に向けた取り組みを進める予定です。

(4) 海外研修旅行と学校間交流 ★

国際的視野の育成および国際性涵養の一環としての研修旅行や、海外の学校との交流の実施を再開・継続します。2024年度は、2018年度に交流した学校である St. Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携を進めていく予定です。

2023年度末には、数年ぶりに台湾聖心小学校への訪問を行うことができました。2024年度は、台湾聖心小学校から本校への訪問を再開する予定です。今後も姉妹校として、安定した協力関係を築いていきます。

(5) 生活指導

昨年度、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け、2024年度は年間を通して通常の学校生活に戻ります。特に、ランチにおいては、ランチルームを活用した食事を計画的に位置づけることを通して、食事のマナーを学んだり、同学年や異学年の交流の場にしたりする機会としていきます。学校生活の中でも、より多くの人とのコミュニケーションの機会が増えることもふまえて、相手や場に応じた言葉づかいやふるまいができるようにしていきます。

また、昨年度から進めている制服の見直しも継続します。それとともに、子どもたち自身が制服の着こなしを通して身だしなみを整えることができるようにしていきます。

(6) 中学接続に係る取り組み ★

中学校進学にあたり精神的に磨かれているだけではなく、進学後に必要な学力を満たすよう、授業改善、学習支援に努めました。必要な学力に達しない児童については、職員間で交流し、本人や家庭に個別の声かけを行ってきました。2024年度も中学接続について、早い段階からのアプローチを行うこと、個別指導に力を入れることを重視し、家庭と対話しつつ細かな対応ができるようにします。

(7) 大学・高校・中学との連携

学園内連携推進協議会のもと、小中高協議会や小学校・大学連絡協議会で互いに共通理解を図っています。2023年度入学試験でも、南山大学の多くの先生方にご協力いただきました。また、南山大学の学生による入試業務補助も継続します。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて中断していた南山大学の留学生の小学校訪問は2023年度から再開していますが、2024年度も続けるとともに、生徒クラブによる演奏披露なども再開を目指しています。

2024年度も適切な時期に適切な方法で連携事業を推進します。中学・高校教員との合同研修会についても検討し、中学・高校教員との互いの理解を深めるとともに、連携を進めていきます。

(8) 児童の自治的活動

2023年度に各委員会の役割やつながりを検討したことをもとに、2024年度のスタートとともに小規模な改善を行う予定です。2024年度には、児童会活動におけるICT機器の活用を進めたり、放送室の活用方法を見直したりすることで、児童の自治的活動の充実を後押ししていきます。また、代表者会をはじめとする委員会の組織の改善について検討を進めます。

(9) 児童の安全の確保

昨年度実施した「登下校マナー見直し月間」および「強化週間」は、「家庭」「保護者わかみどりの方の見守り」「学校」の連携により児童の登下校マナーに対する意識を向上させることにつながりました。2024年度も、「登下校マナー見直し強化週間」での保護者による登下校マナーの見守り期間を位置づけることを継続し、さらなる登下校のマナー改善につなげていきます。

また、2024年度は、南海トラフ巨大地震に備えて防災について見直すことを重点とします。避難訓練をより現実に即した形で行ったり、現在の防災用品の見直しを図ったりすることを通して、非常時を見据えて必要なことを明確にし、子どもたちの安全確保に努めます。

(10) 教師力の向上 ★

保護者や年中・年長児保護者に「南山小学校ならではの学び」を教員一人ひとりが具体的に説明や発信できるようにするために、2018年度、2019年度に行った「真教育」研究会の新たな開催の仕方や研究の進め方を検討し、準備していきます。教科研究とともに学園の理念(キリスト教の精神)やICT、学級経営、教育課程編成の研修計画を見直し、実施していきます。

3. 施設・設備

(1) 校内施設の改装

PCルームやコロナ禍では第2保健室として使用していた児童会室の有効利用を考えていきます。同時に今後の職員室のあり方なども含めて複数年を見越しての計画を立てる予定です。また、校内施設の修理・点検を継続して行います。

4. 社会貢献

(1) 地域との連携 ★

昨年度、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け再開した、聖歌隊による地域の行事や老人ホームの訪問について、2024年度も継続します。3～4年生による地域清掃では、「いりなか商店街」との連携を継続します。6月頃に「南山小見守り隊」の総会を行うとともに、南山小通信を活用した情報共有を進めます。また、地域の方の新規登録を継続して募集します。

生活科や社会科の学習を通して地域の方とふれ合う活動を大切に、児童の地域への感謝の気持ち

が高まることを目指します。このような活動を通して、地域社会の一員としての奉仕の心や地域を愛する心も育みます。また、このことが、児童の安全確保にもつながると考えます。さらに、地域の小学校とも連携し、地域社会の中で共に児童を育てます。

5. その他

(1) 広報活動 ★

受験者の保護者を対象にしたアンケートでは、多くの方が本校 Web ページにアクセスし、学校行事や児童の様子から情報を得ていたことがわかりました。それを受け、2023 年度は紙媒体による広告掲載を減らし、本校 Web ページの充実と SNS の広報活用に取り組んできました。

2024 年度もより多くの情報発信を行い、SNS も活用しながら口コミでの広報活動を重視していきます。まず、校内の様子を日々発信することで本校児童の生活の様子を具体的に理解していただけるようにします。また、入試情報も効果的に発信していきます。現在、本校に在学している保護者や関係者とつながっていくことで広報活動が効果的に行えると考えます。

また、2023 年度は受験希望の保護者の皆様に来校いただき、本校のリアルな体験をしていただくことができました。2024 年度も学校説明会、学校公開、授業見学会、個別相談会など、より多くの機会を作って来校していただき、本校の良さを伝えていきます。

(2) 保護者への教育相談の広報および教育相談事業 ★

2024 年度も、教育相談担当者へ教育相談予約ができる体制、南山大学保健センターから助言を受けられる体制を継続します。さらに、南山大学人間関係研究センターと連携し、子育て支援講演会と子育て支援グループの会合を定期的実施します。継続している事業のため、保護者の教育相談予約に対する認知度も高く、利用者が増えています。

学習支援については、支援が必要な児童に対して個別に支援ができる体制を作っていくようにします。

以 上

2024年度聖園女学院附属聖園幼稚園事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2024年度事業計画の概要

新型コロナウイルスによる行事等の制限がなくなり、従来通りの保育に戻りつつあります。園児の経験を少しずつ増やし、成長へ繋げられるよう保育内容を見直します。また歴史ある本園での保育に誇りを持ち、伝統を尊重し、継続しながらも、ニーズに寄り添います。また、日々の保育の中で子どもたちに自立心、道徳心、思考力を養い、自身の考えを言葉で伝える力を身につけ、個々の能力を高められる環境を整備します。

さらに、一人でも多くの園児確保に努め、正課保育はもちろん、満3歳児の受け入れ、預かり保育、プレ保育についても、内容を見直しながら提供します。

2024年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・満3歳児クラスの入園児獲得のための広報活動を強化していきます。
- ・広報活動や各種受付などWebページの活用を積極的に進めていきます。
- ・保護者のニーズに応じた預かり保育の充実を図っていきます。

2024年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・保護者との協力体制をより一層深め、子育て支援の援助を継続します。
- ・優秀な教育職員の確保のため実習生を積極的に受け入れ、今まで以上に養成機関に出向くことに取り組みます。
- ・学園内連携の一環として、聖園女学院高等学校・中学校、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園との教育連携を行います。
- ・未就園児とその保護者を対象にプレ保育を行い、園の魅力や楽しさを発信し、入園へ繋げます。
- ・園で行うイベントへ近隣の方に参加していただくことで、カトリック園の特色や教育理念を理解していただき関わりを深めていきます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 満3歳児クラスの入園児獲得のための広報活動強化

Webページや在園児を通して広報活動を行い、5月より保育を開始します。満3歳児のみのクラスを作り、年齢に合った楽しい保育内容を展開していきます。プレ保育も同時に実施する中で、満3歳児保育を保護者に知っていただきながら本園の魅力を紹介していきます。

(2) Webページの積極的な活用

本園へ興味を持っていただいた方が、本園の特色ある保育内容や普段の様子をご覧いただけるようWebページの内容をさらに充実させ掲載回数を増やします。またWeb受付フォームを活用し、申込等をWebページで利用できるようにし、入園希望者の利便性を向上させ、参加者数の増加に繋げていきます。

(3) 保護者のネットワークを活用した広報活動

入園希望の方は公園や習い事等で幼稚園の情報を集めることが多いため、保護者を通してプレ保育等の案内を配布し、必要な際に入園希望の方に手渡してもらえようにします。園だよりもプレ保育の情報や入園迄の予定を掲載し、入園希望の方へ声掛けの協力をさせていただきます。

2. 教育・研究

(1) 預かり保育の充実

保育後に家庭的な時間を過ごせるよう環境を整え、園児にとって預かり保育が楽しみにできるような活動内容を準備します。また、預かり保育を担当する専任の教育職員を配置し、各家庭の事情を把握しながら子どもに寄り添った保育を行います。さらに課外活動への参加の手助けにもなるよう利用しやすい時間設定を検討していきます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 保護者との協力体制

本園の教育方針や園児の様子をクラス懇談会や個別面談を通してきめ細かく伝えます。園での様子を伝えることで、保護者に常に寄り添い心を通い合わせ園児の成長を見守り続けます。保護者主体の行事「ちびっ子祭り」は子どもたちが喜び思い出深い一日となるよう取り組みます。保育者も当日参加し手助けをすることで、関わり合いを深めます。

(2) 教育職員の安定的な確保

園児の安全・安心を守るためには、何よりも教育職員が適切に機能し配置されていることが必要です。円滑に採用ができるよう、Web ページを活用して本園の魅力を発信し、実習生の受け入れを積極的にを行い、今まで以上に養成機関に出向くことに取り組みます。あわせて経験者採用を視野に入れて採用計画を考えていきます。

2. 教育・研究

(1) 教育プログラムの見直しの継続

本園の教育目標は、キリスト教世界観に基づき、学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」を尊重し、幼児期に必要な心身の調和の取れた人間の育成を目指しています。新たな課題に挑戦し、幼児の幅広い能力を高める環境作りを継続していくとともに、幼児の体力増進に向けて体育教育に取り組みます。また、国際感覚を養うため英語を他者理解のツールとして楽しく学べる環境作りを継続するために教育プログラムの充実を図ります。さらに、学園内連携として、聖園女学院高等学校の高1家庭科での保育実習を引き続き行うとともに、コロナ禍で控えていた聖園女学院附属聖園マリア幼稚園との交流も再開し、「手話で絵本を読む」を実施し手話へ興味を持つ機会を作ります。総合学園だからこその交流活動を一層深めます。

3. 社会貢献

(1) プレ保育の実施 ★

2019年より未就園児とその保護者を対象にプレ保育を始め、園の魅力や楽しさを発信しています。また園庭を開放することで保護者同士のコミュニティーも生まれ子育ての悩みを分かち合うことができます。プレ保育後は、教育職員が保護者の質問や悩みに丁寧に応えることで安心感を持っていただき、入園へ繋げていきます。

(2) 近隣の方とのコミュニケーション

12月に行う「クリスマスの集い（聖劇）」へ近隣の方をお招きして、カトリック園の特色や教育理念を理解していただき関わりを深めていきます。

以上

2024年度聖園女学院附属聖園マリア幼稚園事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2024年度事業計画の概要

本園の特色「お祈り・親切・がまん・ありがとう」を大切にできるよう園児に伝えるとともに、心身のバランスのとれた成長を促すために園児一人ひとりを育てることを心がけていきます。また、これまで以上に保護者の声に耳を傾け、本園のあり方を確認し改善することに努めます。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことに伴い、事業全体あるいはその実施方法を検討し、園児を始め、保護者や教職員の安全・安心を心がけながら、可能な限りコロナ禍以前の事業内容を基本とする事業計画を進めます。

2024年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・満3歳児クラスに専任教諭と非常勤教諭を配置し、園児の安全・保護者への安心を提供します。
- ・職員の専門性を向上させるために、園内外研修に積極的に参加していきます。
- ・姉妹園である聖園幼稚園と交流し、園児・教員ともに互いの特徴を認識し自園で活かしていきます。
- ・2025年度に本園は創立60周年を迎えるため、記念事業の一環としてマリア像を一新します。

2024年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・聖園マリア幼稚園の特徴でもある縦割り活動を充実させ、あわせて積極的にWebページでお知らせしていきます。
- ・広い園庭を利用して園庭開放を2023年度より実施しましたが、保育時間中にも実施できないか検討し園児募集につなげます。
- ・Webページの写真掲載や保護者参観を充実させ、見える化された保育を目指します。
- ・子育て支援事業としての未就園児対象「ひよこらんど」をより身近に感じ参加できるように充実させ、園児募集につなげます。
- ・聖園女学院高等学校・中学校との連携をより充実させ継続することで、将来の保育者の育成につなげていきます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 満3歳児クラスの体制強化

満3歳児クラスは在園児の弟妹を優先し募集していますが、ここ数年新規の方の申し込みが増えている傾向にあります。満3歳児対象の園見学日を設定し、園生活やカリキュラムの充実さをアピールすると共に子育ての相談の場とし、幼稚園に親しみがもてるように対応していきます。

(2) 園内外研修への積極的な参加 ★

新型コロナウイルス感染症により実施が困難となっていた県外の研修やオンライン研修に積極的に参加し、園内においても、教員それぞれが幅広い分野に触れて得たものを教員同士で分かち合うといった研修の機会を通じて教員としての意識の向上や保育の質を高め合いたいと思います。

2. 教育・研究

(1) 聖園幼稚園との交流

姉妹園として園児同士の交流を楽しみ、保育者同士の保育現場を学ぶ場として互いの幼稚園を訪問することを実現に向けて検討していきます。

3. 施設・設備

(1) 創立 60 周年記念事業への取り組み

2025 年度に創立 60 周年を迎えるにあたり、マリア像を一新し、記念品を作成する等幼稚園全体で周年事業の環境を整えていきます。

Ⅲ. 継続事業

1. 教育・研究

(1) 縦割り活動の充実

年少児、年中児に年長児のペアをつけ低学年の不安を軽減させるとともに年長児がお世話をすることで思いやりや責任感を持つことをねらいとして取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症によりペアでの活動を自粛していましたが 2023 年度に行事での活動を徐々に再開しました。2024 年度は行事の他に園生活の中での関わりを増やしていきます。行事だけではなく普段の園生活の風景を Web ページでお知らせすることで保護者に生き生きとした子どもたちの表情をお知らせしていきます。

(2) 開放された保育の充実 ★

Web ページの活用により保育の「見える化」をすることで保護者とのコミュニケーションを高めるとともに、保育者自身が見返すことで保育の質の向上につなげます。保育の様子を撮影した写真や動画を披露する場を持つとともに、保護者と一緒に園児の成長を共有することで保育者との信頼関係を強め、安心して預けられる環境づくりに励みます。

(3) プレ保育「ひよこらんど」の充実 ★

未就園児対象「ひよこらんど」参加者の過半数が次年度に入園している実績を見ても、この事業の存在が園児獲得に大きく貢献していることが分かります。

2023 年度はプレ保育開始時間を通常の保育時間帯にも設定することで、普段の保育の様子や園児の発表を通して成長していく姿を見ていただく機会を持つことができました。幼稚園の敷地内に駐車しているスクールバスに保護者と一緒に乗る体験をしていただき、保護者にもスクールバスでの安全確認の取り組みや運行の安全性をアピールし、幼稚園への期待を高めていただけるようにします。来園する機会を増やすことで保育者との関わりや保護者同士の交流の場も増やし、子育てへの不安を解消する場として親しみやすい幼稚園を目指していきます。

(4) 聖園女学院高等学校・中学校との交流

新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことにより 2023 年度の交流が通常の内容で行われ、保育実習の一環ではありますが生徒にとっても園児にとっても附属校の交流として貴重な経験ができました。将来附属幼稚園での就職を希望するきっかけとなり保育者を志す生徒の後押しとなる交流をしていきます。

2. 施設・設備

(1) スクールバスルートの変更 ★

2023 年度に小型スクールバスを導入したことでバスルートを拡張することができましたが、園児が長時間乗車することとなり園児の体への負担が大きくなってしまいました。ルートの短縮化を前提に、在園児と 2024 年度入園園児とでバス停をすり合わせ保護者の意向も踏まえたルートを検討していきます。

(2) Web 受付フォームを活用した各種利用申し込みの導入

在園児を対象とした給食の申し込みや園見学の申し込みなどの利便性を考慮し、Web 受付フォームが活用できる環境を整備したことにより保護者を始めとする利用者に定着してきています。Web 受付

フォーム上での園見学の申込みについては、一日の人数制限を設定することで丁寧な対応が可能となるように環境を整えます。

3. 社会貢献

(1) 園庭開放

広い園庭を活かして、入園を考えている幼児および保護者が来園する機会を増やすことで、保育者との関わりや保護者同士の交流の場を持ちます。2023年度は10月より月に1回保育後の時間に開放をしました。2024年度は保育時間中にも設定し在園児や保育者と触れ合う時間をもつことで本園に親しみを感じられる場とし、園児募集につなげます。受付をすることで来園者の所在や不審者の侵入等の安全面の取り組みを保護者に発信するよう努めます。

(2) 地域の方々への感謝 ★

勤労感謝の日には郵便配達員や交番、駅員をはじめ身近で働く方々、敬老の日には聖心の布教姉妹会修道院・シニアホームを訪問し、園児が作成した作品を直接届けて感謝を伝えています。地域に密着した活動を継続することを通して、さまざまな仕事があることに関心を高め、その方々のおかげで安心した生活があることの気付きに繋がります。

以 上